

大和名所圖會

山邊郡 城上郡  
城下郡 宇陀郡  
四

ル 4  
6321  
4







大和名所圖會卷之四

山色里  
 在原寺  
 引手山  
 廣高宮  
 合夜田墓  
 山神社  
 布留野  
 石上布留社  
 水分社  
 内山永久寺  
 城下郡  
 城上郡  
 宇陀郡  
 石上  
 有常田  
 袋道  
 穴穗宮  
 千墳  
 豐日社  
 布栖小社  
 布留龍  
 下部社  
 良因寺  
 石上布留社  
 祝田社  
 龍王山城  
 山邊社  
 朝日豐明社  
 三島社  
 布留忘水  
 龍福寺  
 中野  
 大和國惠社  
 石上沈  
 喜殿  
 二階堂  
 白堤社  
 夜部伎社  
 布留山  
 布留川  
 都水氷室  
 春葉龍  
 末迎寺

目錄









廬戸宮 麻氣社 齊宮 恩智社 岐多社 小孫橋原 香水山 御井社 室生山 室生溪 糟川 椿井川 雄嶽 神末川

寺川 韓人沈 服部社 大和川 久須美社 宇陀川 篠畑社 石神殿 龍穴社 血原 屨風嶽 函見嶽 桃股川

法樂寺 朝雲社 坂子沈 村屋社 吹上嶺 宇陀寺 赤人瀆 嶽山 室生寺 漆部郷 門僕社 龜山 八幡社

鏡作社 法貴寺 松刀邑 靱負御井 墨坂 宇陀氷室 檜牧川 佛隆寺 味坂社 曾爾川 唯嶽 御杖社 源有綱宅

吾妻野 岡田社 伊那佐山 春日社 大藏寺 男坂

美牟順比社 古市社 宇陀水分社 白鳥社 秋山城 丹生社

日張山 淡古川 林小孫 高倉山 阿紀山 竹川

櫻實社 都賀那本社 忍鳥社 劍主社 松山城





後撰集  
 伯州(後)の  
 山のまき  
 まりの小  
 くまの  
 茶抗  
 旅と  
 さり  
 かの  
 山の産れ  
 向ま  
 あらぬ  
 秋や  
 宿ん  
 仔細

山を  
 石と  
 折ふ  
 わり



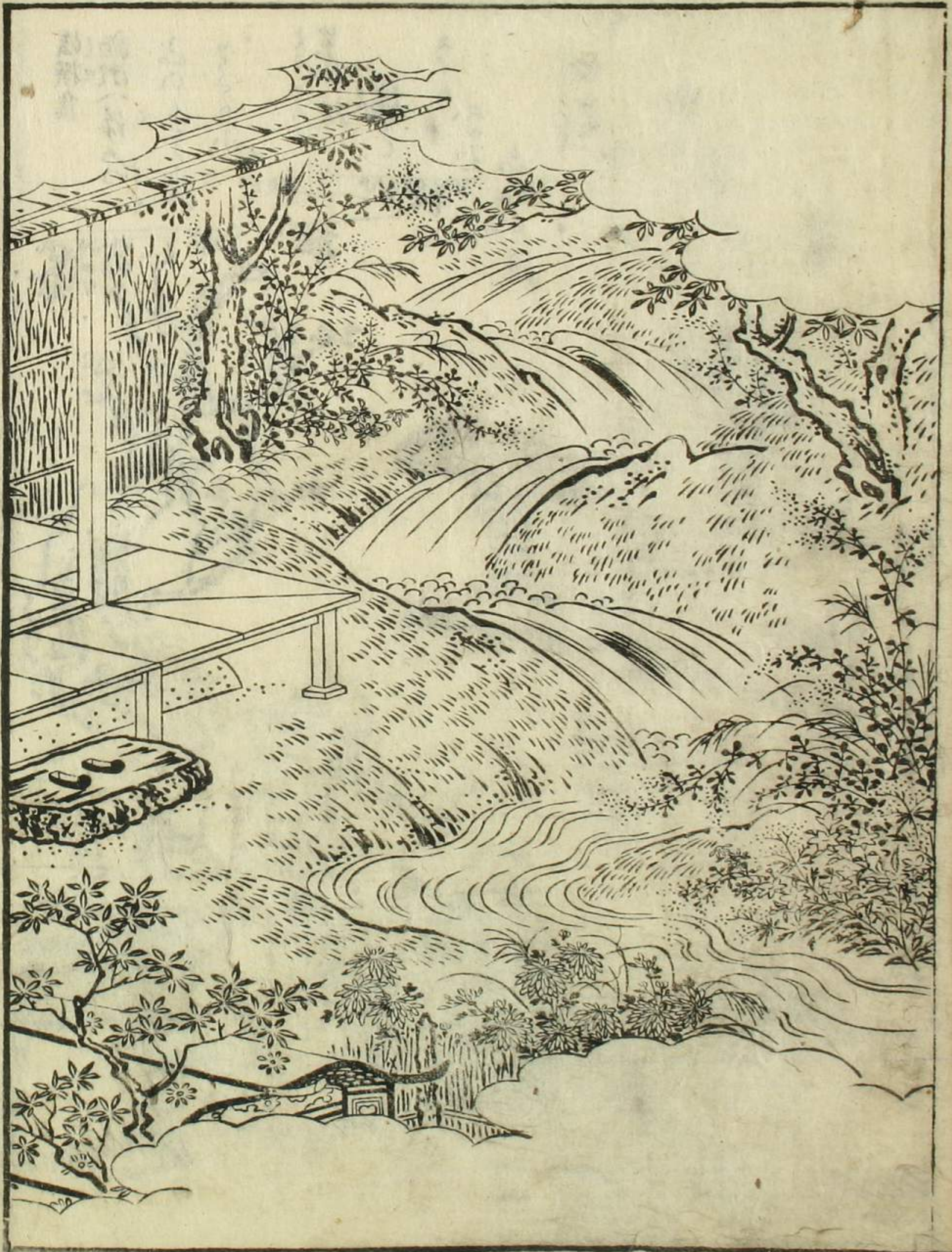


古今集秋

仁和のみにと親まふ  
 おいしうらうらふ附あふの影  
 清涼やんををさうさう  
 清小通昭か母の家あり  
 やくりくさくさうさう附小  
 春風秋の群へ花うら  
 清お借のほゆくの清  
 なりうら

里のあれてんか  
 かりの宿  
 されや  
 庭も新し  
 秋の神さう

信正編





石上いそのかみ 山色郡やまいろのこ

古今 いその神の多むすむの言はく人々いそ神といふ事なりわろくふふふふ

拾遺 日光登小一わらわいそ神ありうーこふ花も咲たり

新古今 まられんそちちるる上めけけけらぬ山回るとも

續古今 石上ありうー人々いそ神ありうー宿り董はみたり

石上ありと今ふるうー昔れあそ成さそまの孫傳

祝田神社いのけの 田部村たべのむら 喜殿村きどの 石上いそのかみ 十と六む町まち

伯瀬はかせ 伯瀬のりたるふふふのこい入所一やとらん一けりたるに誰と

名系なけい 名系は人ありぬ一ふのふは本丸後派いうとさま

引手山ひきて 由ゆ東あづま 小こあり龍王りゆうおう 倉道くらみち

倉道くらみち 倉道くらみち 倉道くらみち 倉道くらみち 倉道くらみち

お小ゆうとそんゆる倉道れいものふ乃峯れ祖葉 顕季

二階堂にがいだう 本尊ほんそん 虚空藏菩薩こくうざうぼさつ 膳ぜん 膳ぜん 膳ぜん

れ造営ぞうえい 初はつ 天香てんかう 久く 小表せうへう あり柝膳しやくぜん 膳ぜん 膳ぜん

賦し の子こ を根ね 芥か 採さい 居い 多た 聖徳せいとく 太子たいし のみそあそふい

ひのふく妃ひめ とせと勢せい のふと能也ねえ 傳でん 小こ 入い たり

廣高宮ひろたかのみや 石上いそのかみ 小こ あり仁賢にけん 天皇てんおう 穴穂宮あなほのみや 田部たべ 村むら 小こ あり安楽あんらく 天皇てんおう の

心こころ とむねとさりたり石上ありと都の五明乃日 兼法

山邊神社やまのへ 西井戸堂さいいどの 村むら 小こ あり長屋原ながやらの 長系村ながけいのむら

和銅三年二月藤原官より寧樂官小つりありの時

花はな ののり日香ひかう 此里こゝ 成なり たりと君きみ のわたりありと又あり

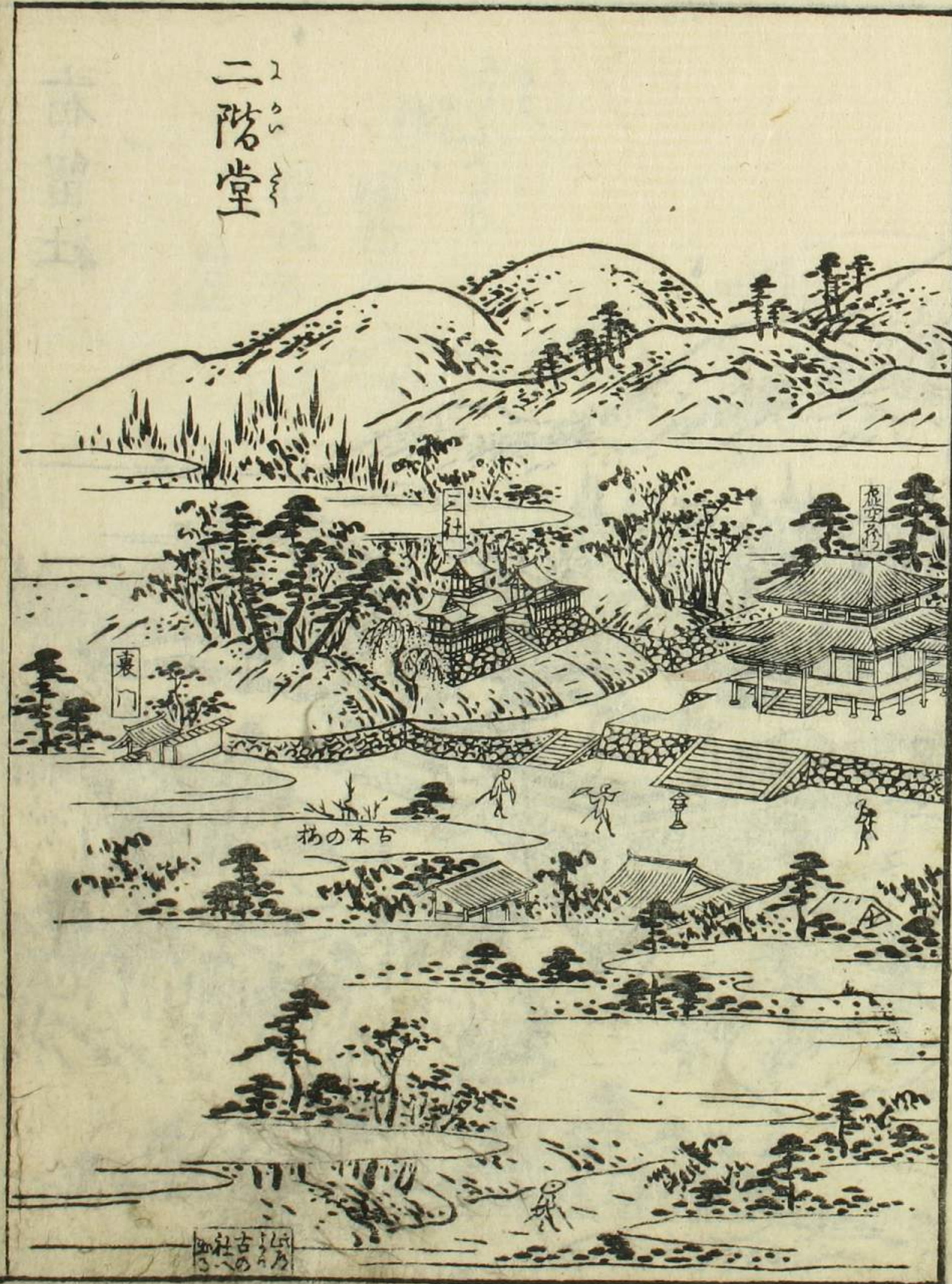
白堤神社しろつゝの 長柄ながへ 村むら 小こ あり今いま 倉田墓くらたのみ 中山なかの 村むら 小こ あり俗よこ 殿との 墓のみ とあり

朝日豊明神あさひゆめいのかみ 社やしろ 依保よほ 莊むら 村むら 朝日あさひ 觀音くわんおん 堂だう の

夜都伎神社よとぎの 社やしろ 此こゝ 本村ほんむら 小こ あり今いま 本明神ほんめいのかみ 山口神社やまぐちのかみ 神名帳かみなぢょう 三代實派さんだいじつは 一いつ 出で



二階堂



法上那虚空藏  
如意弘仁寺  
當山暖藏の  
天皇の勅額寺  
日本之虚空藏  
弘仁五年甲  
造立



あしせり



布留藩

弓小  
徳  
松の  
徳

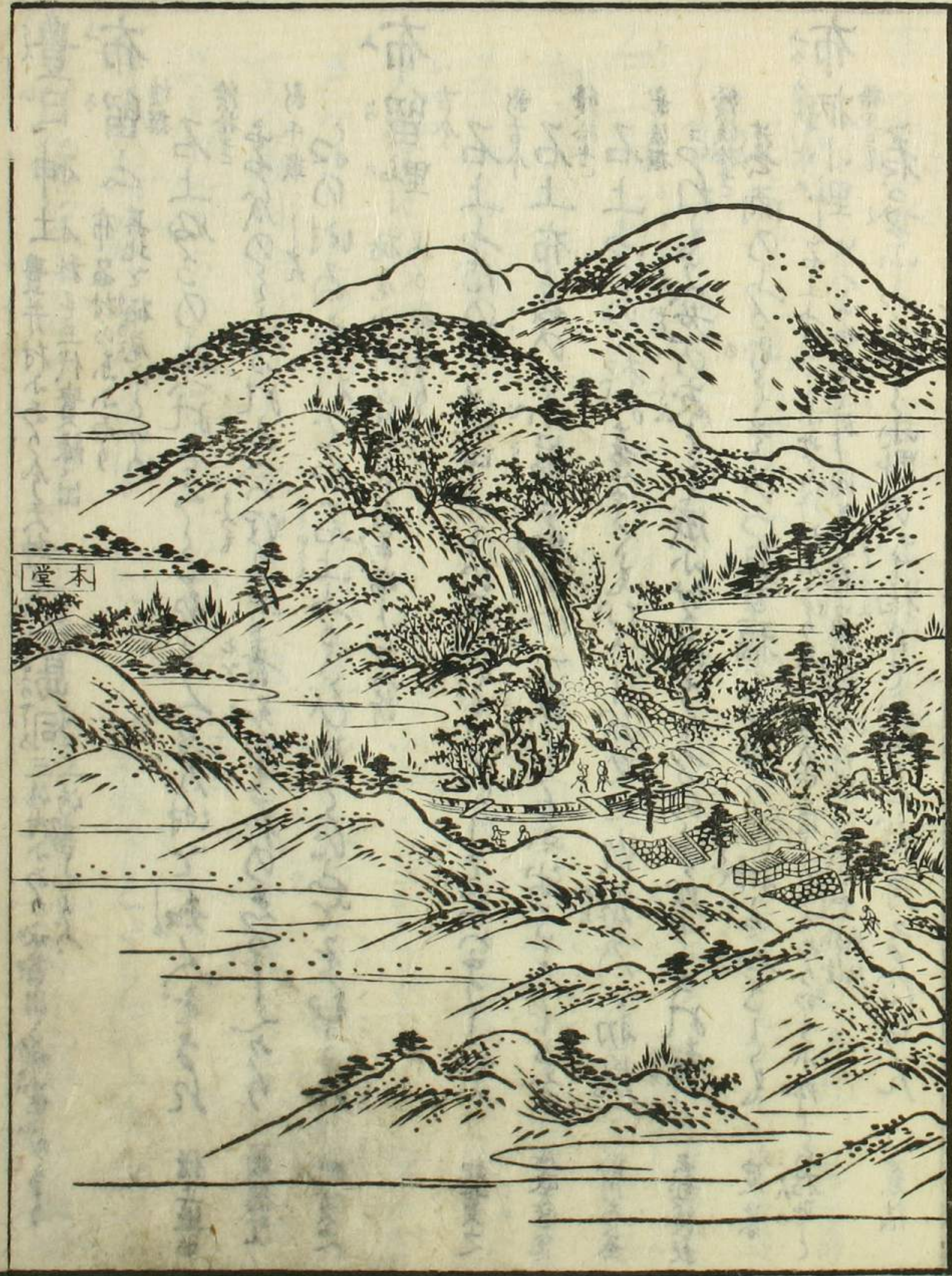


布留社



りく





堂木

布留瀧

桃尾瀧とていふ





豊日神社

豊井村あり今天神と三島祠三島村あり水苔出味毒敷り

布留山

布留村のふあり其北と樫尾とあり

石上ゆりの山はれさうう花うらん時と知人ぞうれ

信正通記

石上のまのさるれふはて青糸そ花のまうさうり

順徳院

おのけあふれなる石上あふびあふとそむん

紀貫之

布留野

樫尾ふり道のたれ馬場とあり

石上あの中道中へはるるごひと思ひまうやい

紀貫之

石上布留の小篠あふ一夜さうりふあさうさ

権守政

石上あふの松れまさうもむうはのこは乃初風

前春基

おれも又老の友と成小けるさうのさあこれ聲

去部海親

春雨のさうさうそのつは草摘てゆらん神とぬるとも

定家

布柄小野

石上あふの小野も所れ名あり石上あの中道とあり

松野

布留忘水

布留川 布留高橋

石上あふの流の末さうさうさうさうさうさうさう

律意法所

石上あふの流の末さうさうさうさうさうさうさう

律意法所

石上布留社

布留村及び四十八村の氏神

夫当社と延喜式の石上坐布都

御亀神社

常陸國鹿嶋の神宮と同躰十握劔の御名天羽斬とも號と押し劔素盞烏尊出雲國うて八岐乃

大地とさうさうの尾はさうりあふ小劔の又さうさうさうさうさうさう

尾張國熱田神より蛇はさうさう劔と蛇の藤正と号し石上小坐

又天羽斬といふ大地はさうりあふさうり

石上あふの流の末さうさうさうさうさうさうさう

石上あふの流の末さうさうさうさうさうさうさう



布衣はくありたりその布はまのたれく劍のまはりより神と祠く  
布衣の明神と号しなる扱を布衣ぬのふとほるともわたり  
御鎮座の人皇十代崇神天皇の所宇より伊香色雄命大日  
天社國社及び八十万群神及びの付大和國の志郡石上の邑  
よりなる其神十種の瑞寶の高皇產靈尊より鏡速日尊より  
其子味間見命ふあそんより神武天皇より後天孫齊石上  
の大神と号し國家あがれ祀り

神庫 征殿の傍ありは池より方丈の櫃あり神倉

又後小の傍布衣のたれく劍のまはりより神の外まはりより  
又後小の傍布衣のたれく劍のまはりより神の外まはりより  
又後小の傍布衣のたれく劍のまはりより神の外まはりより

初冬のあられ神杖はひれてまゆゆの舟のまはりより  
いづとせさるるの神杖は雨つよとれぬ系糸はひり初らん  
長方 中宮御馬

後古今 宮居せしその始も石上少の社と人ヤのひらん 定家

布留瀧 桃尾のふあり 飛泉三及なり白虹を成  
穿く瀉を寒聲月を誘く走る絶系窮とてて廬山の  
銀河三千尺ともいひつて

桃尾の龍福寺 布留山の 基菩薩の南基よりいあり一と伽藍  
嚴重より今頽廢して僅小存なり本堂小十一面觀音と安住傍小

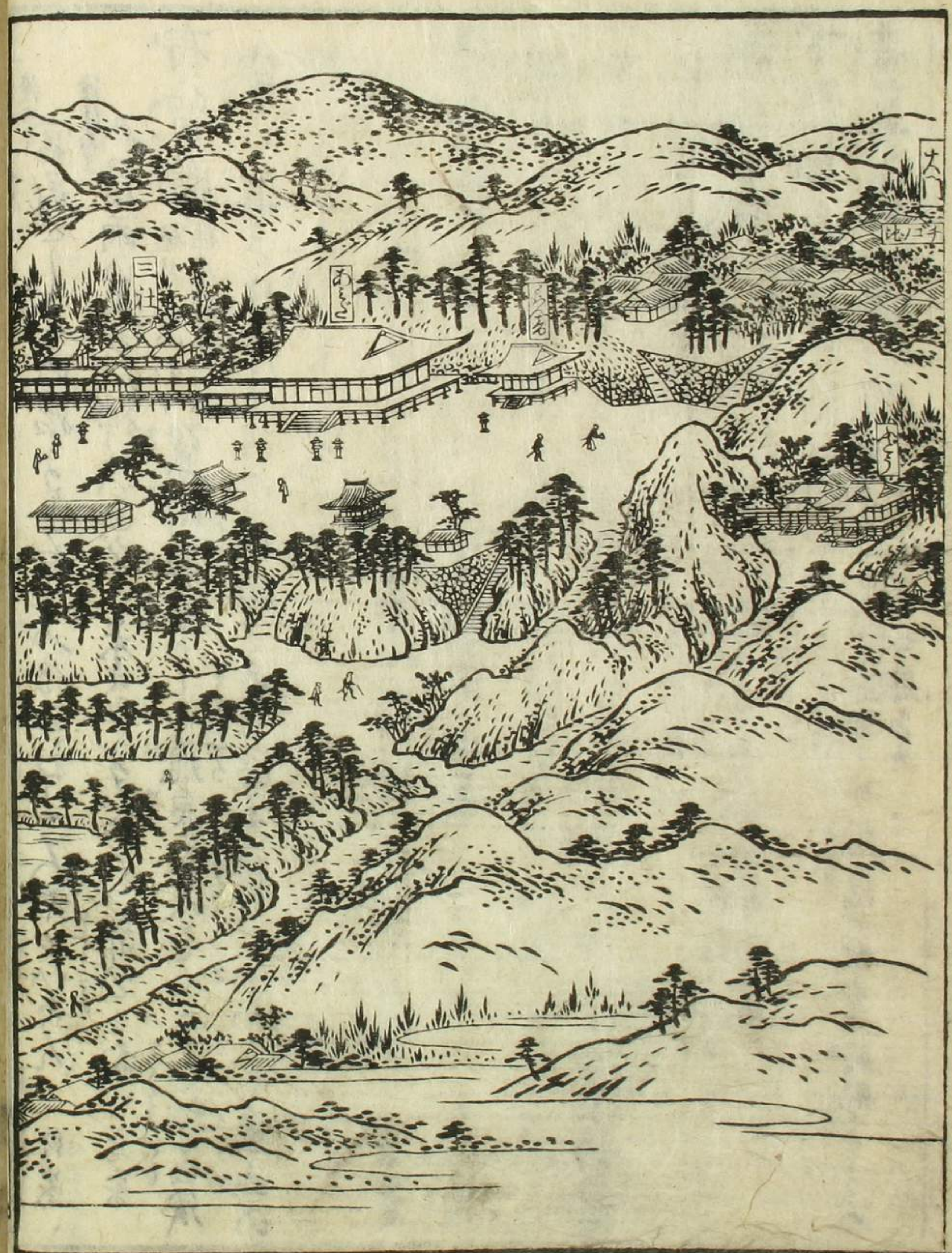
阿弥陀堂十二所権現春日祠あり足鎮守の神其傍小鐘樓  
ありく子院僧坊十六所ありとせ

都介氷室 氷室洞あり日本紀出 都祁水分神社 鞆田村あり  
下部神社 神名帳出 中川 早の村あり

青葉瀧 長瀬村あり飛泉數十丈俗小雄瀧とて下流に瀧あり雌瀧とて人  
其高と較丈より風系奇勝あり



内山  
永久寺





永久寺

山前



内山金剛乘院永久寺

山は村の東、名取院の清願あり、同基釋

亮慧真言傳法の人の此五銚の形のふり、中央の山崎あり

され、内山と号せり、永久年中の系創され、永久寺と名附り、宗首の

真言あり、本堂の阿彌陀佛と本尊と、奥院の不動明王、日本

三跡の其一より、觀音堂、千跡佛堂、二層塔、大師堂、真言堂、よと

大日如来、安住額、名取院の表塔、鎮守の社、清瀧權現、岩石上

明神、長尾天神、勧請と云、弘年中、笠並城没落の時、醍醐天皇

志のび、入御、移入遺跡、本堂の乾あり、又大塔宮、内山と

傳れ、其外、緒堂、魏々々々、子院、四十七坊あり、と云、宗流々

醍醐金剛院の法流、當山流の法顯あり

良因寺

石上布留村

一名石上寺、又名良峯寺、今膏藥師堂といふ

天長年中、長守法師住持、其後、傍正遍昭も、其に幽居と、良峯といふ

又、素性法師も、其に、とて、其の法師の石塔あり、と云、双紙、小、と云



後撰集

石上寺小寺より日の暮るれば我ゆきまかりとぬらん

石の上旅宿をされしとてむむ昔の夜は我小借らん

延一

世はむむ暮の夜は只一帯さひやむむ三人旅ん

相模家集

大和國龜社新泉村延喜式曰大和聖大國龜神社三座

相堂新堂公系文徳實録曰嘉祥三年十月從二位公授三代實録曰貞觀元年

從一位公授近郷八村の氏神例系四月朔日

拆大和國龜神大照右神と二神あひらへて天皇大殿の内より

復りた安うは天照右神の豊鋤入形令公は倭美縫邑磯堅

神離公建はつらつら又日本大國龜神公津名城入形令公

つと崇神天皇及び國中あかち疾疫一死亡もの半にらん

とて同七年天皇はるるげとむむ時小倭迹々日百襲姫命

小大物主神著多むむ告ありて小津美小我は是大物主の神あり

我見太田々根子公は我をよむしはつらつら田々根

子令公神主とて又市磯長尾市公倭國龜神は神主とて

らるるあひらへて後天下太平とてそりぬ日本

来途寺多田莊村本尊善導大師の遺像は則大師の御影とて

あひらへて入滅八十七年の後末朝あり天平宝字七年筑紫とて

の浦小島あひらへて其地の極楽寺といふそとをかりて

大和國十市郡後井の光寺といひたりて建曆元年の乱逆

小つらつら多田の来途寺にむむなりたかの遺像或時傍に現

僧文化して本像とてあり時われを瑞美公若時われを躰ありとて

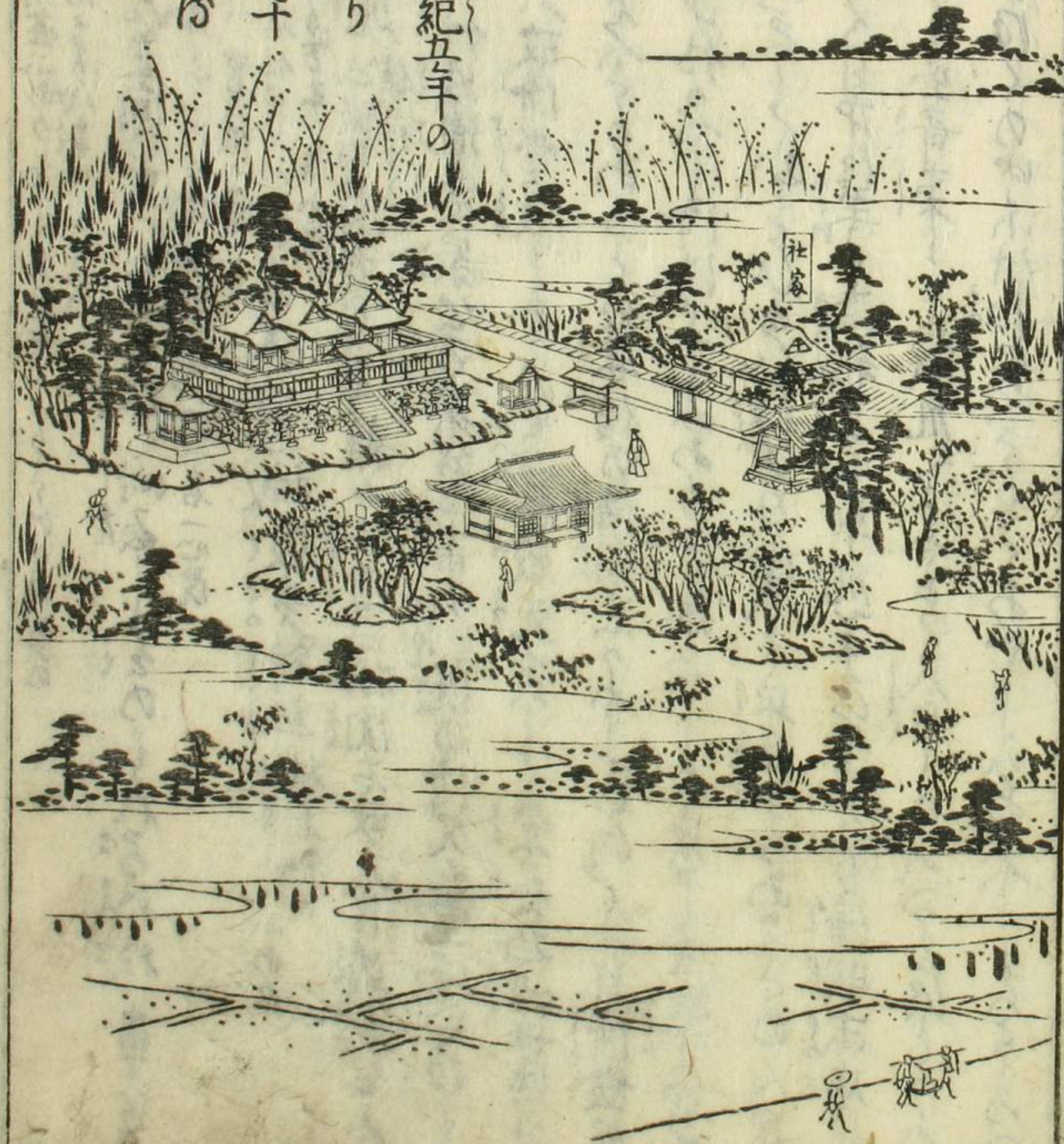
か小及び其異うらうらゐるゝかぞふに違ふとて寺記小のり

名張川伊賀より流るる春日社十三村の氏神とて

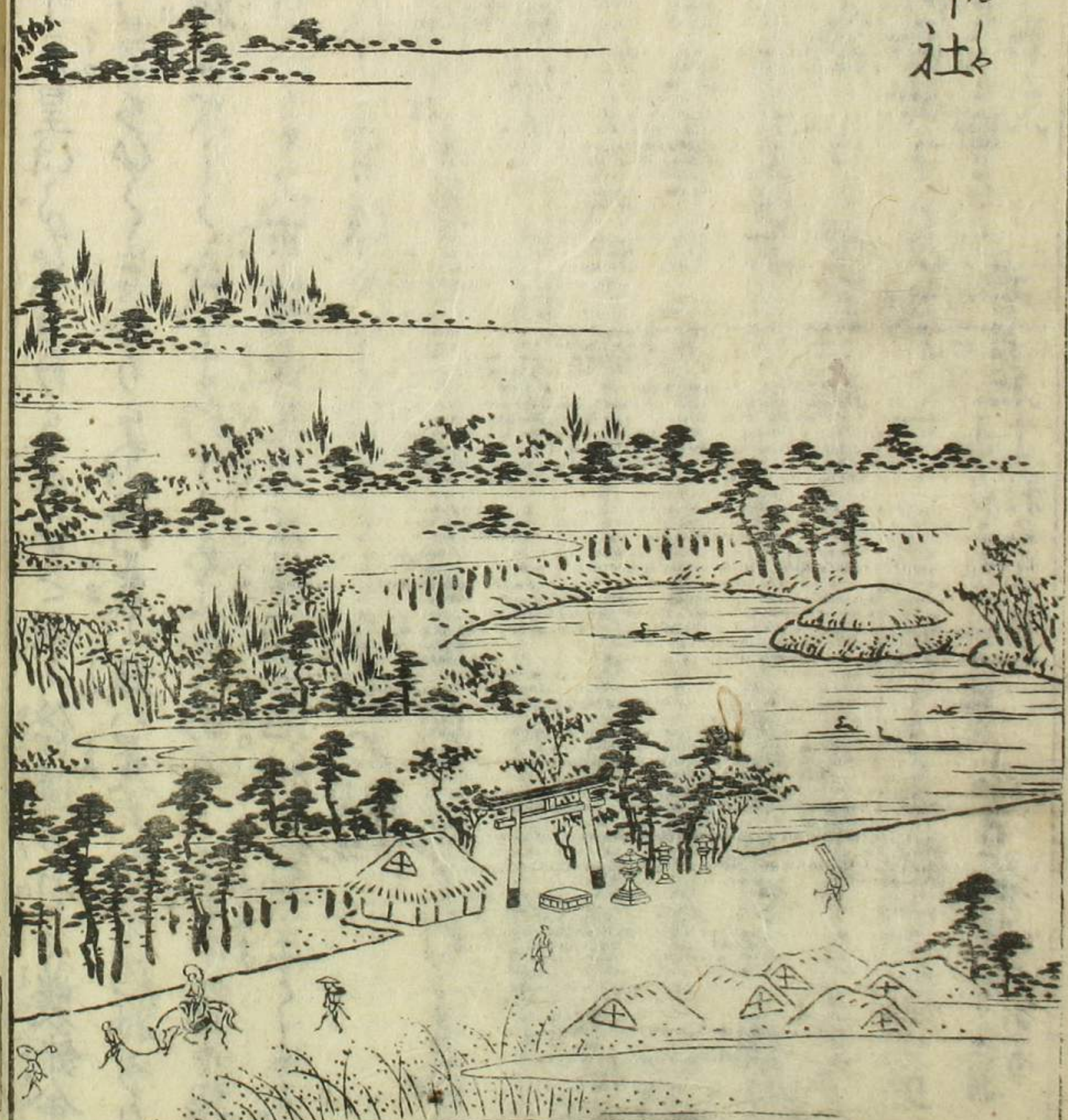
山名御井あり



人皇十代  
 崇神天皇紀五年の  
 御鎮座より  
 今一千八百七十  
 余年ふるに



大和神社





笠間山

笠間山 笠間山 通称あり 五里あり 笠間山 笠間山

神野寺

神野寺 三代實録より出 神野寺 三代實録より出

波多横山

波多横山 一名仲峯山 神波多神社 仲峯山 神波多神社 仲峯山

名産白甜瓜

名産白甜瓜 笠間郡田村丹波市村 雑々拾遺曰 橋園左政大臣道長公

大織冠十二代

大織冠十二代 後胤兼家公の家 後胤兼家公の家 後胤兼家公の家

建立の故

建立の故 清堂殿と号す 清堂殿と号す 清堂殿と号す

の書に

の書に ありありと ありありと ありありと

あや

あや ありありと ありありと ありありと

あり

あり ありありと ありありと ありありと

道長公

道長公 ありありと ありありと ありありと

郡上城

此より 頼光末座より 小蛇あり 勅修の佛力 眼疾刺す ありありと

他田坐天照御魂神社

他田坐天照御魂神社 城上郡 幸玉宮 敏達天皇の皇居

景行天皇陵

景行天皇陵 柳本村 柳本村 柳本村

竈馬橋

竈馬橋 倭修記曰 金の口 倭修記曰 金の口

水口神社

水口神社 天王と称す 水口神社 天王と称す

崇神天皇陵

崇神天皇陵 淡谷村 淡谷村 淡谷村



釜口山長岳寺金剛身院柳本の東弘法大師の開祖として本尊を

虚空藏菩薩之本堂の傍に大師の影堂あり又寶光あり其の

不かりに愛染堂の中へ其傍坊十所あり西の山頂に古城乃

にあり其麓に千塚といふあり我死のその所瘞む所と云

穴師兵主神社穴師村の東に月高あり系所神代のむく一天皇

天沼りのみ時護齊の續二面子鈴一合派所ありと云其一の

鏡へ天照太神の靈と云く天懸神と所名派中一の鏡へ天照太神

の荒靈と云く國懸神と所名派中今紀伊國名草宮に崇光

身付太神と云一の鏡子鈴と天皇御食津神朝夕の御合我護

日護齊身付今巻向の穴師の太神是之

珠城宮穴師村の西にあり俗に長者を尊といふ後成

沈水に國さくけりやれと云の珠城の風と今も沙なり清信公

日代宮穴師村の山あり景行天皇紀四年十一月

緒環塚街道の東のふりりむく一松系の宮は秋の夕暮家降

終りんと天照車に先と云く虚空にけり常陸縣にありひそ系

大胸狹のむき名活王依姫小通ひ多ひと云の通後人の志所

所よあざざりたり其女と云くまひたり父母あやしむ

誰人の通ひ来たりふや女と云くこれに神人ありと尾上より

かよひあふ志くれをさう玉巻に針はけけその裳をそとて

ゆ衣をそひけり小鑰の穴より出く節後山行と云吉孫と

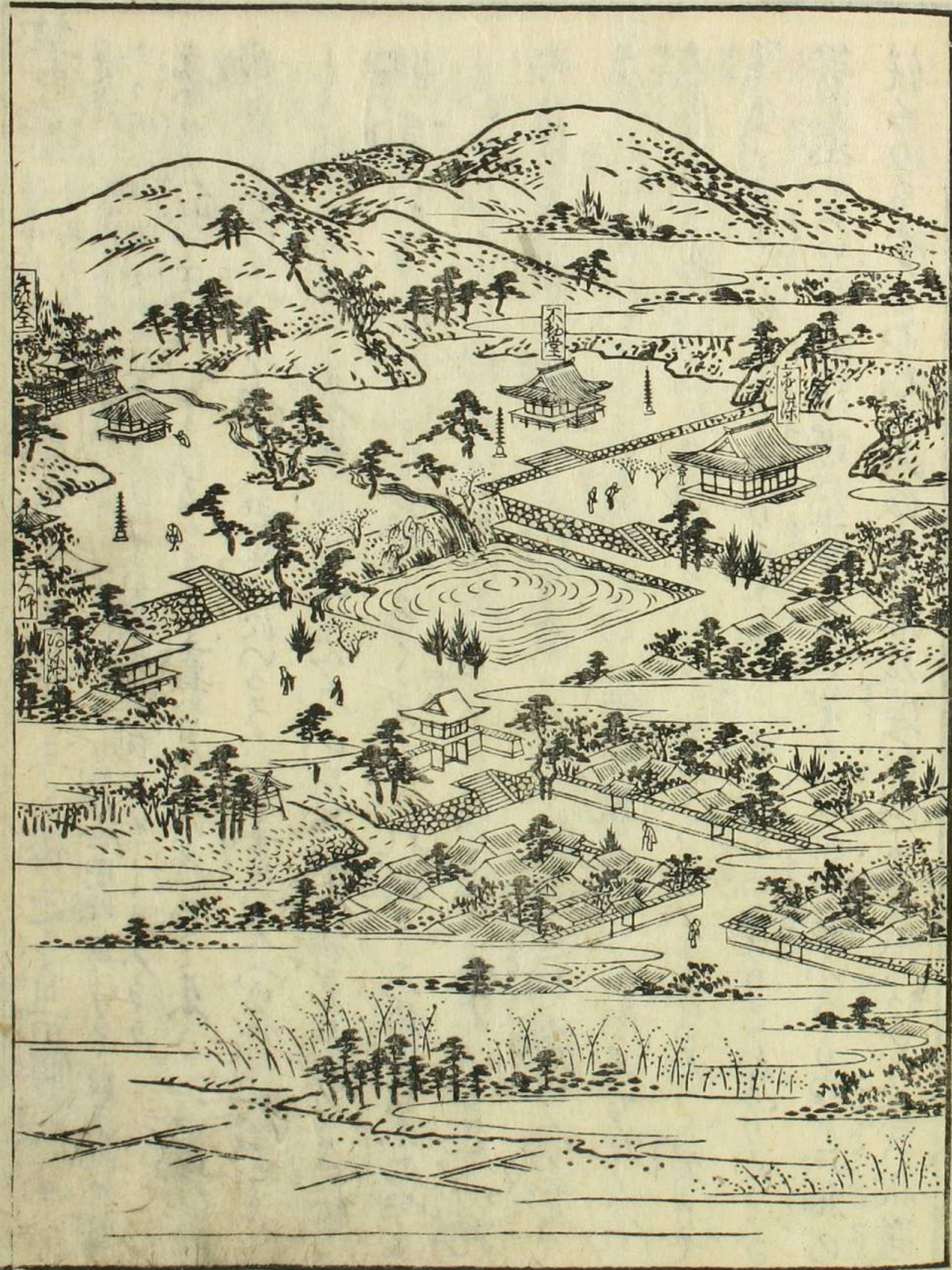
小入と諸とにともなりたりその系は二丸のこりしより三梅と

と云るがけり在信事

痛足延喜式穴師に云く巻向と云く松向のあかしと藤つけりとの頂小

風むく松系の時雨かたかあそけり村雲基後





釜口  
長岳寺



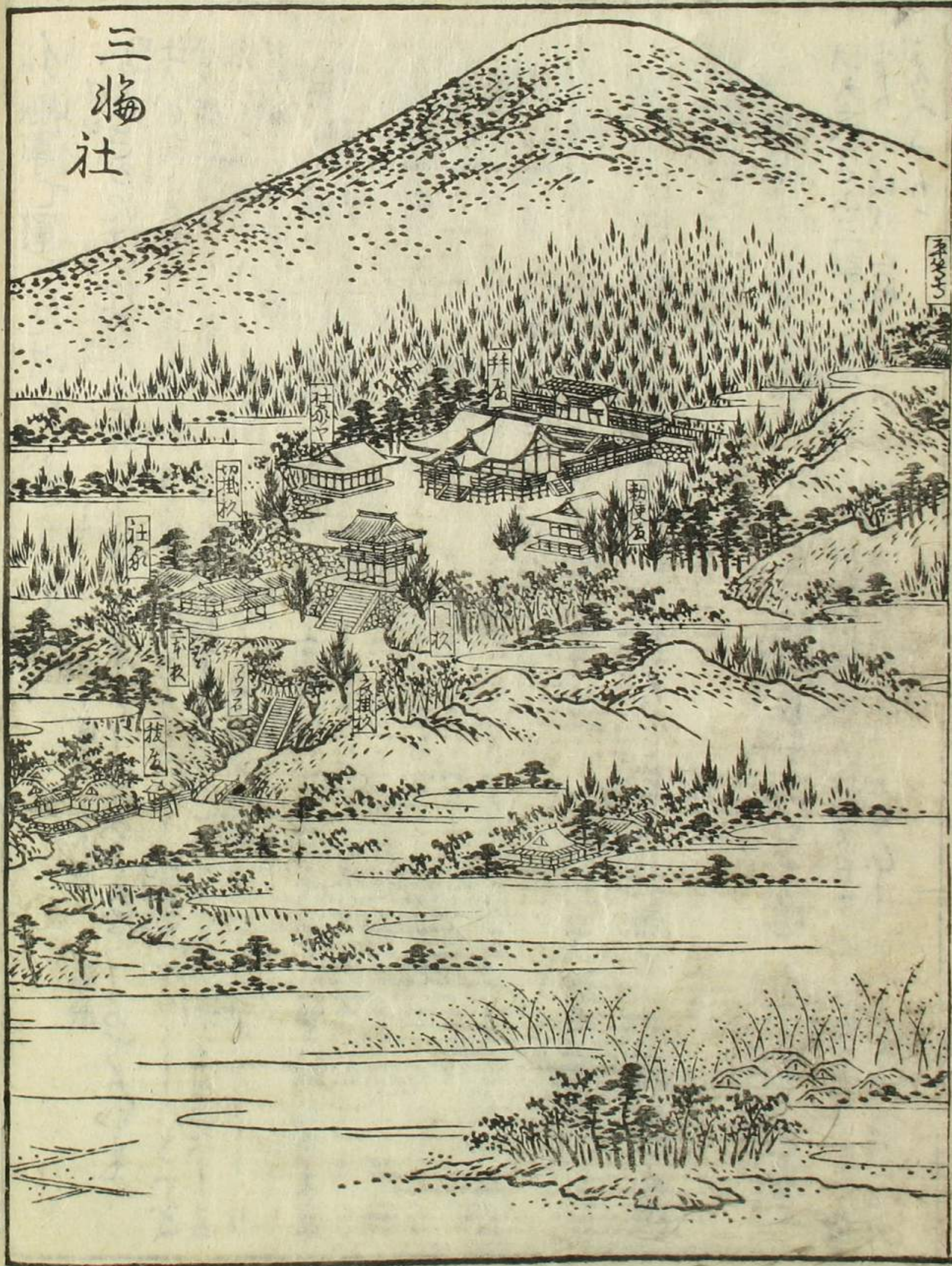




大ニ編方  
若宮



三編社





三編一巻居

續後撰

みしめ引

之瀧の杖むす

古ふりり

こふり

神代の

まへ

成らん

お家



古今  
我々

之瀧のふりり

まへ

こふり

まへ

杖たて

お家



長者屋敷



神岳山

神岳山 同山あり 神山 三垣山 神邊山 万葉集小呂河

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 法はく 藤山をれこのりけの初瀬は松系もやゆも

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや 貫之

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや 伊勢

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや 元補

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや 人元

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや 素意綿

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや 形意頼補

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや 定家

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや

一 藤山 志もかきとまきふもんあらんかくはくや







後相社 本社より二町南小あり 磯城宮 本社より三町南あり 天照大神始まつ所あり

夜掛相 右の方に大木の枝あり 玄覺僧都の夫婦石 二條明神所向の

二本相 一柱の實永年中大風の時 御新橋 建市京長者の 抜戸社 左の脇小

駒留石 四月卯の日を事に社司け所あり 大橋 毎年正月十一日夜神事あり

網掛松 毎年正月九日法津の綱 旗建芝 毎年正月十日小五穀成就の

惠義領社 二條の町小あり 毎歲正月 沈田 二條の七ツ沈の一ツあり

洲橋 あり 長谷川に所は遠く 茶摘田 大鳥居の右小あり 今より

洲枝處 毎年六月晦日社人は所はゆる 夏越のこゝいあり 二鳥居 大橋と

間あり 若宮社 二のをも居よりを町小あり 右田を根子の命 大鳥居 二條の町

觀我鳥百譚云神代の文字とくく二條大明神の額とあり今

興福寺の庫中小在今くく小書に勝る石礫の銘の字と甚

似たり世小叔孫通され故小ありのあり

三輪社 久代  
大鳥居の額  
神代の文字と  
云々



長三尺一寸

廣二尺七寸

日向社 二條の嶺小あり 今高官と称は 狹井溪 水係と二條のより 狹井寺の

網弒神社 二條村小あり 平等寺 三條村小あり 本堂護摩堂祖師堂

珠城山 纏向山の西に小に孤と

里人のつゝ岩孫の道とくたまたのふりたり 實伊



玄賓菴

發心集曰あるの帝  
 市時大傍都にふ  
 多ひつらみ神一  
 とくく清く

之梅川の清れ

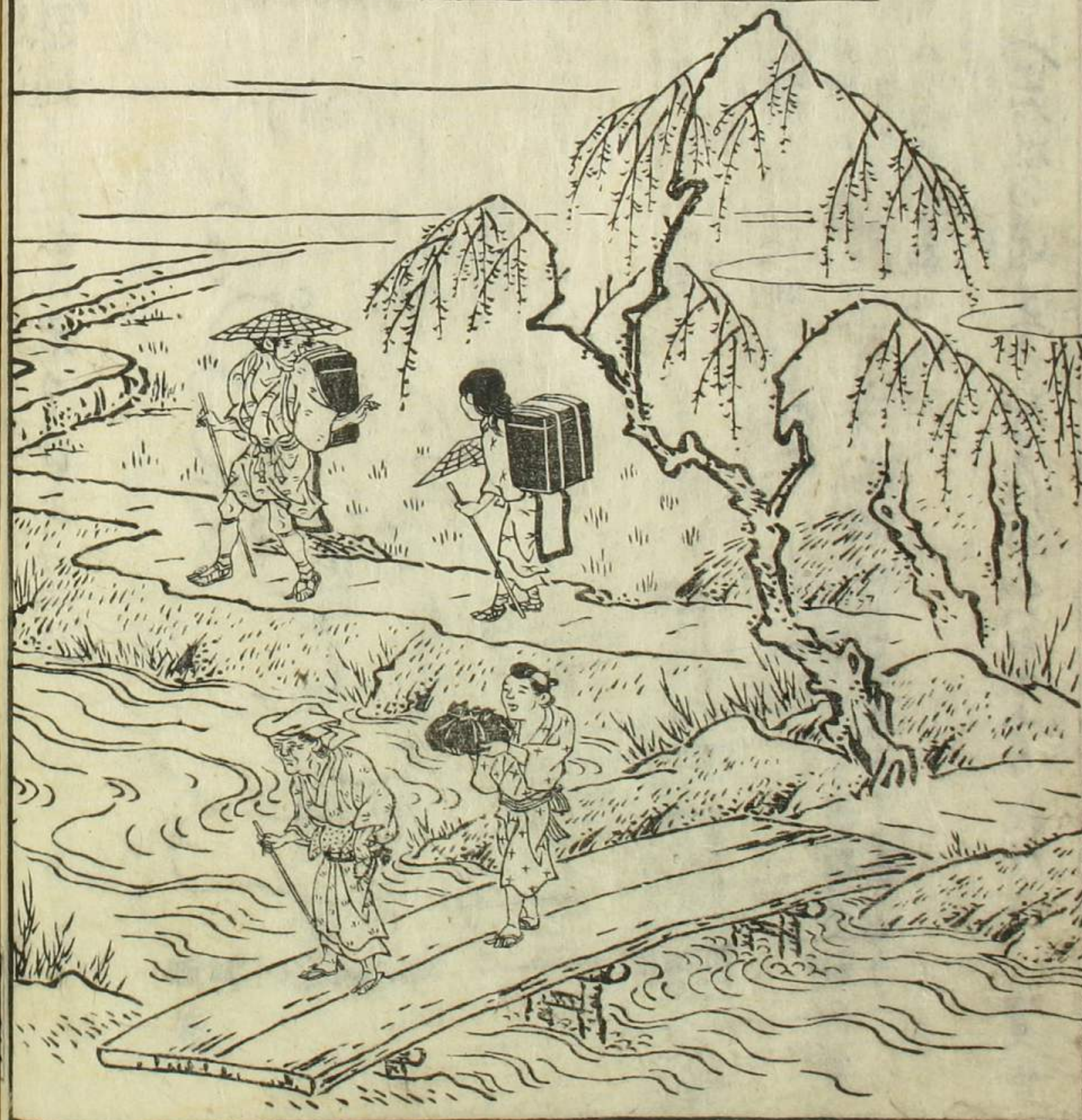
かうれふ

とてて

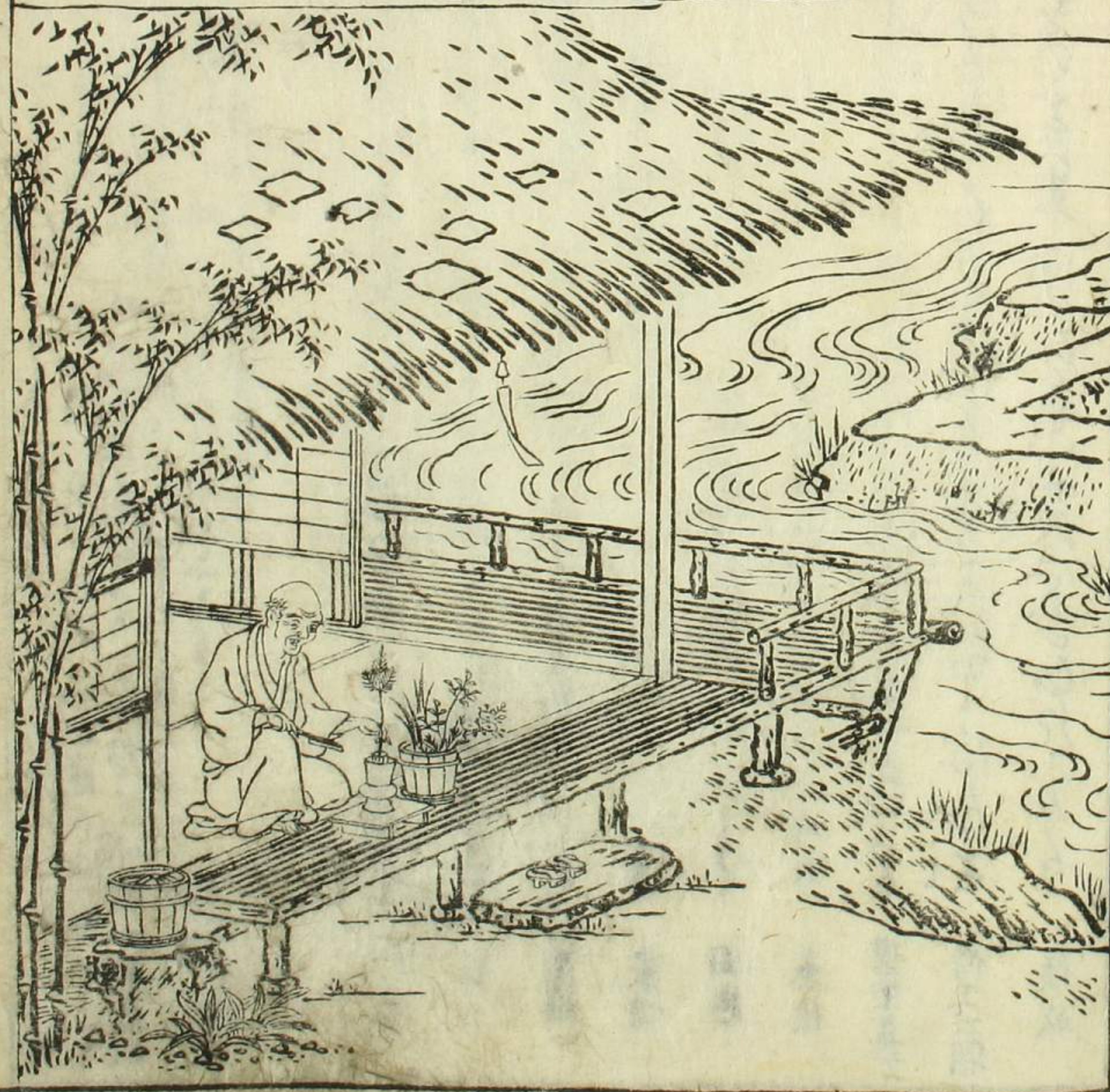
夜の神もみ

ほき

玄賓傍都



飢食<sup>イ</sup>松花<sup>イ</sup>渴飲<sup>イ</sup>泉<sup>イ</sup>  
 偶<sup>イ</sup>從<sup>イ</sup>山<sup>イ</sup>後<sup>イ</sup>到<sup>イ</sup>山<sup>イ</sup>前<sup>イ</sup>  
 陽<sup>イ</sup>坡<sup>イ</sup>軟<sup>イ</sup>草<sup>イ</sup>厚<sup>イ</sup>如<sup>イ</sup>織<sup>イ</sup>  
 因<sup>イ</sup>與<sup>イ</sup>鹿<sup>イ</sup>麋<sup>イ</sup>相<sup>イ</sup>伴<sup>イ</sup>眠<sup>イ</sup>  
 これ<sup>イ</sup>唐<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>錢<sup>イ</sup>起<sup>イ</sup>か  
 詩<sup>イ</sup>め<sup>イ</sup>と<sup>イ</sup>其<sup>イ</sup>伴<sup>イ</sup>も  
 くら<sup>イ</sup>くら<sup>イ</sup>み<sup>イ</sup>たり











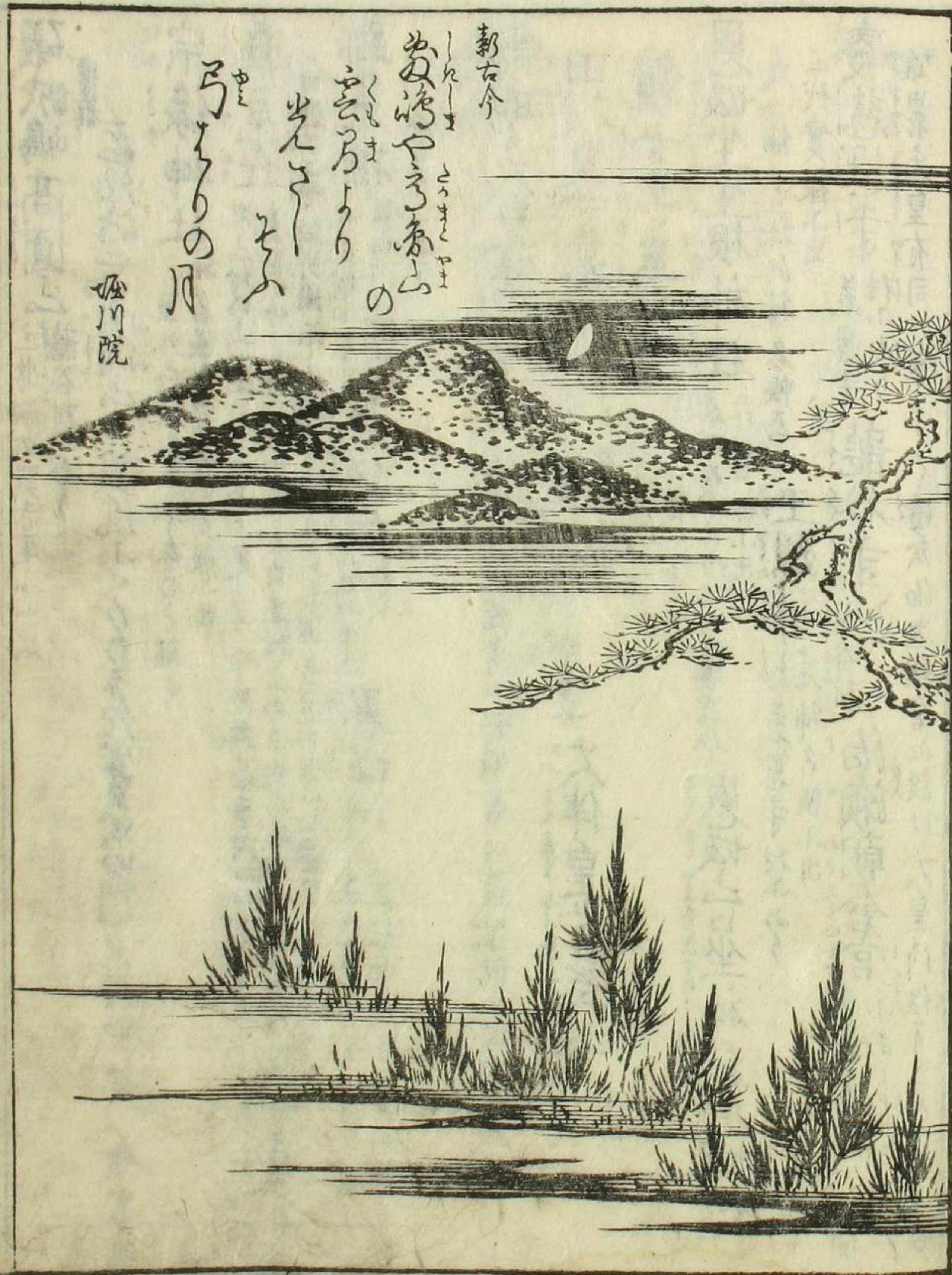












朝古今  
 出ぬ海やうきあふ  
 の  
 光るる  
 光るる  
 弓の月

堀川院





磯城嶋高圓山 三藩勝の巽赤尾山の東 龍谷村小あり

志見崎や高田山の松風ふりりるた家松の門の月かけ 續金史

宗像神社 三座外山村小あり今春日と稱す 神名帳小及び三代實錄小出

鳥見丘 外山村の上東の方あり是より宇陀郡萩原村に至るより上古よりと云へく 鏡速日尊 河内國の上野峯より大和國志見の白土に遷坐し居たり

跡見橋 外山村小あり 恩坂山 恩坂村の東 恩坂川 志保十市郡栗系より 川合より至す

寺川小入 舒明天皇陵 恩坂村の上あり陵圖考曰舒明帝の陵字段々塚といふ 高廿七間根廻百三十八間

田村皇女墓 敏達天皇の皇女藤原姫皇女 大伴皇女墓 延喜式 小出

鏡女王墓 延喜式出此三墓俱小 舒明天皇の陵城内小あり

恩坂坐生根神社 恩坂村小あり神名帳及ひ 恩坂山坐神社 赤尾村に あり今

廢慈恩寺 志恩寺 龍谷寺 龍谷村 泊瀬朝倉宮 黒崎岩坂二村の間 雄略天皇有司に命じりて廢す泊瀬朝倉に設け天皇御位より居たり

故の宮と定む帝王編年小城上郡磯城谷より長谷より 南北町よりあり

岩坂井 岩坂村小あり一村皆 嚴櫃本 白川出雲の二村の 人皇十代崇神

天皇四十二年天皇照を神大和國伊豆加志本の宮に之り 女ひく八年心ひなりたり 倭姫 世紀 磯城嚴櫃之本とも 葛本宝書に

土人曰く一々照を神とせせ居り一々居のたつと長谷の町うちの勇民登の 内小磯ニツあり按そり小磯城崎の才里神小名の遺より伊豆毛村の十町をり 坤にあり伊豆加志本の名居のたにけりるん

近年古字保五年に華表立一しり 車輪瀧 迹驚淵 車輪橋 俱小白川村 物まよ

車輪瀧 迹驚淵 車輪橋 俱小白川村 日本紀曰ん

夷の艦いふかかばくおそ後くうん 天武天皇白鳳八年帝幸泊瀬真迹驚淵上

兼田神社 白川村轟瀧の上小あり 金平山 白木村上方あり山勢高く聳へ 巖に到れく遙く 吉隱陵 式曰皇太后紀氏 衆の上に出版路曲盤

西海に臨む 吉隱村の上方小あり山中に桐樹多し秋の末爛漫の時蜀錦と翻小ぬり 猪飼山 持統紀九年十月菟田吉隱山幸其山と浪芝の山

吾門之淡茅色就吉魚張能浪柴乃野之黃葉散良新





江ノ上  
の  
風景

初瀬寺



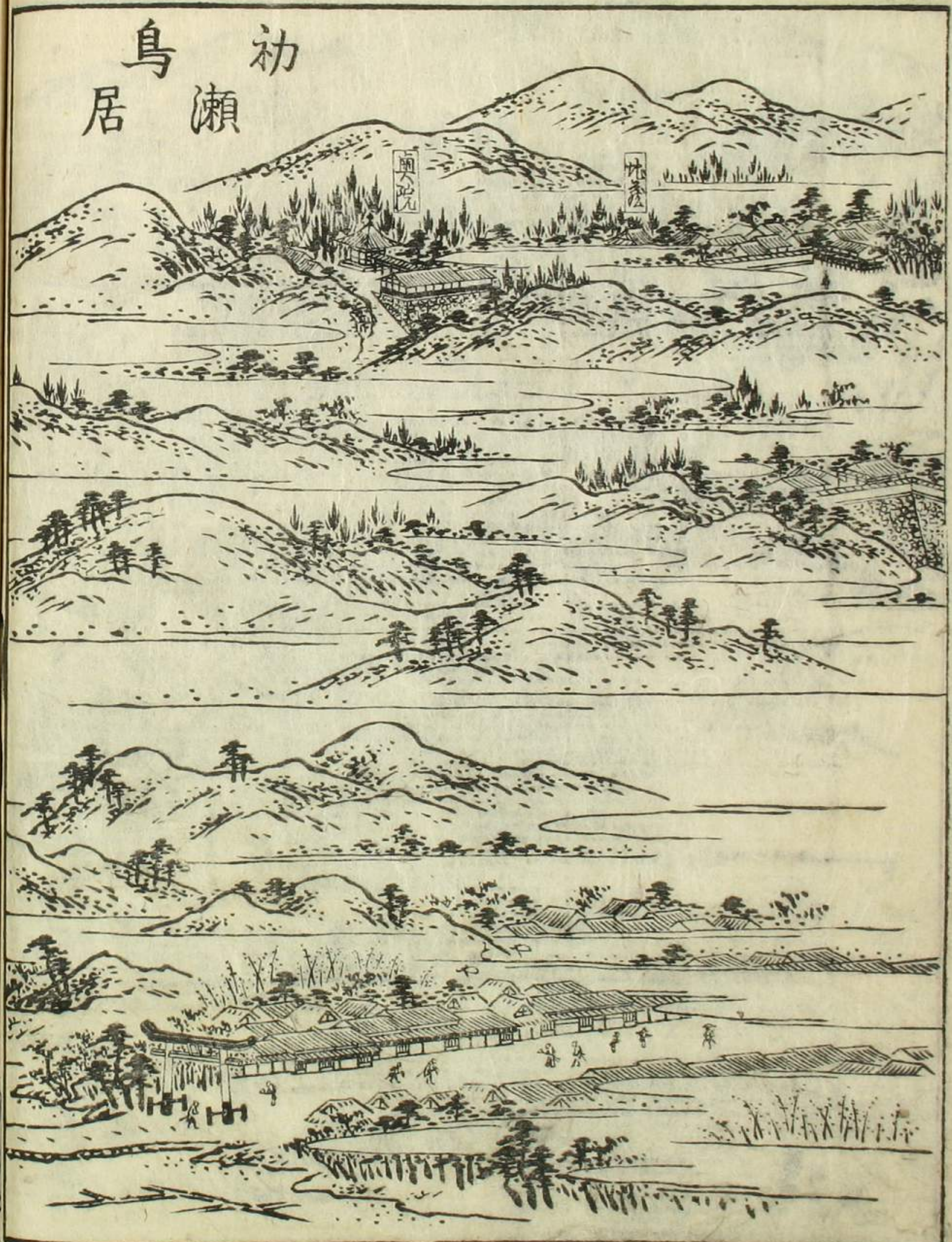
天保



泊瀬觀音閣  
 泊瀬香雲五色間  
 觀音高閣占名山  
 鈴鈴金葉誰家客  
 三十三次第攀  
 服元喬



初瀬  
 鳥居





泊瀬

初瀬村の上あり山嶺あり谷曲うへり

八雲津抄云海士舟泊瀬とてしり

隠口の泊瀬はとてしり小舟のつらみよふたねのいそぎ

隠口の泊瀬はとてしり小舟のつらみよふたねのいそぎ 人丸

隠口の泊瀬はとてしり小舟のつらみよふたねのいそぎ

隠口の泊瀬はとてしり小舟のつらみよふたねのいそぎ

隠口の長谷小國に夜延為永天皇す與奥本下

詞林採葉抄云隱口隱口隱口隱口隱口隱口隱口隱口隱口隱口

其申小かく舟くは字の訓ありゆふをそのいそぎありしり

又小相叶はばさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

混じるる所詮け新いこの日るる入く奥ふたね故小菴口の初瀬といふ

るりものと大初瀬小初瀬ともあり 君の代とてしり世後の百枝樹百枝さうともはるる

事之あるも小初瀬の山石よはにこりこりふ思ふもあせり

海小船泊瀬のふふさう若れ清くくこひ一若とてしり

詞林採葉抄云海小船初瀬の舟ともむるこり入詞の初瀬の舟く

おほくは舟とてしりこりこり入に採せり

十月とてしり小舟のつらみよふたねのいそぎ 公仁

泊瀬の山石よはにこりこりふ思ふもあせり 匡房

夕秀に抄かんふと初瀬の山石よはにこりこりふ思ふもあせり 兼昌

と初瀬の花は盛んふたねのいそぎ 李泰

と初瀬の花は盛んふたねのいそぎ 後撰

年もぬれり契の泊瀬の尾上のうひよのゆめくれ 定家

花はみよふたねのいそぎ 後撰

このりねの枝はとてしりおむねと泊瀬のふたねのいそぎ 梅因

泊瀬女の若のさうは花のうひよのゆめくれ 定家





壬二集  
 紅の  
 かのくと  
 朝日  
 小初瀬  
 の山  
 家隆



伯瀬川 藤原二流あり一は金平平ふりふれ一は遠郡並木の池よりふくれ  
本郡小妻並村に伝へり 和田村小川より二流相合し 初瀬出まき黒崎  
多恩寺 金屋之端 豊前がこま  
江堤小川より城下郡に入

初瀬川 吉川のふし本五枚年成くくも重く二本あり 後人寺に

伯瀬川 清きせきや濁らん葉宿ぐされ我身とさひりむ 日

涼しき秋や清き初瀬川 清き水の秋の末さうげ 有家

石く初瀬の川に波花をくもくものこれふけり式 後人寺に

伯瀬川の白ゆふ花かちもくす氷にせき山川のあ 後人寺に

初瀬川 清き水とて山せ川より流るるの乃さりこれ秋 寂蓮

初瀬川 清き水とて山せ川より流るるの乃さりこれ秋 寂蓮

初瀬川 清き水とて山せ川より流るるの乃さりこれ秋 寂蓮

初瀬川 清き水とて山せ川より流るるの乃さりこれ秋 寂蓮

初瀬川 清き水とて山せ川より流るるの乃さりこれ秋 寂蓮

初瀬川 清き水とて山せ川より流るるの乃さりこれ秋 寂蓮

初瀬川 清き水とて山せ川より流るるの乃さりこれ秋 寂蓮

同林採葉よこの川は百瀬川といへり長谷寺ふきうてぬる

度末世 八雲抄曰伯瀬初瀬

海小舟とほせの舟き小舟きれをれがく思ひし者まてする 赤人

かくこれ伯瀬のふれとてふしとて金とて妹もあへん 黒人

お出はまやとせの波るより白ゆふ花の夕そくそ 後人寺に

本葉宮 藤原葉を是れ初瀬ふありひり初瀬の海にうへりあま

紅葉里 藤原葉を是れ初瀬のなまきとてり或曰お葉のふと

鶯山 藤原葉を是れ初瀬のなまきとてり或曰お葉のふと

おのふりいでてそ崎郭にお葉のふあふりのゆ人 意法

くも井の谷のさるも夕とてりやよひれ葉乃と 石実

鍋倉山 伯瀬川の中

まきとてそきもきとてりこかたの鍋倉山の藪ありたり 相模

家集







古河野舎二本松 長尾氏曰二本杉の本堂の東に下松の寮に下小あり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

古河 古河野舎二本松の北にやうりあり

豊山神樂院長谷寺

泊瀬山あり延喜式曰豊山寺縁起曰豊山山小  
二名あり一泊瀬寺又本長谷寺と云り山當山縁起文の  
執筆ハ遣唐大使中納言從三位兼行龍大辨春官太夫式部太輔菅原朝臣某と記され  
り則天滿宮の御幸其文園の中小池傍の文と括々

上求菩提之山高下化衆生之谷深四神相應之靈場一天無雙之勝  
地也玄武磯礫之山嶺羅苔之松緑徃々開四時之花以送齡貞於  
萬代之春青龍流沙之谷壑岳之巖密間々交雲霧施降而緘嶂晴之岡  
響影於千季之秋朱雀洋澗之谷雲霧施降而緘嶂晴之岡  
觀似潭池掃温勞炎々疫氣白虎禮儀之方更無逆賊之行  
君皇修義人怨自解迴政權儀物情相似定知此山者古仙術行  
之跡衆歎吉祥之砌也

夫當山元正天皇養老六年小室創又文武天皇の御時德道上人

これ瓜造まともい本堂八棟化十三面觀世音の長丈六尺 拾叢抄  
二丈六尺

二王門南小向々椽椽より上まて瓦葺の長廊あり其屋乃下り

石階あり諸堂(堂)を路より北(登)東(轉)又山(堂)は上より坊舎

学寮多し真言宗より新義の学傍集る新小池坊はむく

紀別根来ます小ありは元年十一年秀吉公根来寺破却の後ま僧

諸國小流浪一智積院系都小建小池坊は地に造立はこれ講堂

玉葛舊跡

長尾氏曰長谷寺の川東に玉の石碑と云り尾の尾を小五倫と  
又云玉の尾の尾は南に洞倉内と云り

後成塔

古河野舎二本松の北にやうりあり

長谷山口坐神社

初瀬村小あり今平力雄神祠と称す初瀬寺記小

泊瀬齊宮

初瀬氣波比坂の下

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女

大照太神小侍せり

武天皇白鳳二年四月大來皇女



と號と云舊長谷堂と號と云ひく泊瀬の川上瀧藏權現の社乃  
かたりた大人のほろり昆沙門天ありと雷塔と云なりてそ小登り時  
所々の寶塔塔處てはのありと三神の里社川の瀬小止り武内宿禰  
と云り上りて西北のともふ収まりと云り舊名三神公あり  
と云て泊瀬豊平と云りそれりる百余歳と云く弘福寺の道明聖人  
これ石室小のりきりれより里の名小と云り泊瀬寺と云り大武  
天皇勅と云くあひと彼聖人今に精舎を造営せられと云く  
聖武天皇の勅定ありと徳道上人釈書曰諸人公と云く大平七年  
八月十六日小棟山十九年九月廿日小供をせと云く勅使を中納言  
奈豆麻呂道師と云く天竺の傍菩提咒預師と云く正行基と云くこの時乃  
瑞應本縁起小のり徳道上人の播磨國板室の郡れ人姓の辛久田郡名ハ  
米麻呂後名大武帝即位に二月廿日合出家と云く  
廿八當寺驗記二日神龜三年  
十二月晦日大傍都小住候

長谷の里小末はと云く靈本あり一人の老翁語て曰傳聞継祚天皇紀十  
一年の洪水小近の國高橋郡と云く尾あとの谷より流と云く本楠木長サ  
十余丈  
志賀郡大津浦と云くはりて七十のりと云く其後大和國高市郡八木里  
小井内子と云く女ありありと云く佛像はと云く本本のちと云く  
小川と云くと云く死せりけ里小千余年はと云く同國葛下郡  
の出雲に大なる沙汰法釈書と云くあり十一面の像と云くはと云く  
同郡當麻里と云くと云く大水も死せりけ所小千余歳釈書  
廿二年  
大智天皇紀七年城上郡長谷里袖泊浦小捨と云く之千九年  
と云く廿二年のよれと云く所毎小火災疾疫ありと云く入す  
ふと云く徳道上人釈書小老人のわと云く佛公と云く十八年瓜  
里人小と云くけと云く佛公佛公と云く今三燈の毎利益表と云く  
けと云く夜の爰に東の峯に今三燈の毎利益表と云く  
かの峯小と云く造佛と云くと云く若公若公と云くと云く後と云くの如く若公若公と云く



菅公  
 神作  
 靈人曰  
 坐瀧藏  
 權現於泊瀨  
 河上其所勝  
 地而往古以來  
 諸天影向砌也  
 賜於彼社有天  
 人所造之昆沙門  
 天王有人未辨其名  
 喚為天靈神矣雷  
 取登空之時御午  
 寶塔流而泊此林鹿  
 三神里神泊瀨氏內  
 宿祢卜筮曰斯授天  
 德表地榮也云下畧











古今  
 しのせふて梅と  
 人の心  
 人もあつた  
 古の心  
 花を  
 ひうの  
 春よ  
 白ひたる

宿の心は  
 春よの心

素堂



四三十八



百練抄曰永美七年八月廿五日焼亡觀者像爲灰燼

慈鎮錄曰永美七年十月造佛の厨の伊面仏身中小竹より塗料漆を白丸丸に  
以下の所奉加爲の初は皇后宮内親王家法務大僧正ふと奉附せりといふ事  
二年八月十一日供養あり儀師法勢大僧正明尊咒預へ権少僧都田家讀師の権少  
傍郊長守あり

百練抄曰天喜二年八月十一日供養長谷寺  
靈驗曰堀川院喜保元年十一月十三日觀者堂經藏鐘樓坊舎焼失次日觀者堂宝座  
前灰の中より光灰故こと二時より人々怪く炭灰が極儼とて頂上佛面御  
不焼く在り

慈鎮錄曰美徳年中に觀者堂昇廊再建あり其外はまゝなりといふ事  
延鎮錄曰順徳院建保七年二月十五日炎上同前宇美久元年四月十七日より  
八月廿日とて小親者の像成杉を佛師を法眼は慶安阿蘇院仏と号はけり  
灰出灰の中はありといふ事一仏額半面左右の掌がと仏身中より光灰あり  
より眉向のち精の内より招提寺の舍利一粒灰こけり是を法阿蘇院佛  
師の舍利と

興福寺畧年代記曰弘安三年長谷寺炎上貞治二年長谷寺供養明應四年十一  
月十二日夜長谷寺焼亡同五年八月十五日長谷寺新始

護法善神 漆捲の東に 脇小あり 靈驗記曰元慶五年二月大和國十市郡土師時躬  
といひつるその子と共小當の糸籠りくる其子俄小息終く後二刻分  
と七獲生といふ事あり是馬頭夫人ありといふ事あり後その子に傳り  
護法善神といふ事あり其名を大和國第四百五十五君嶋女大神といふ事あり

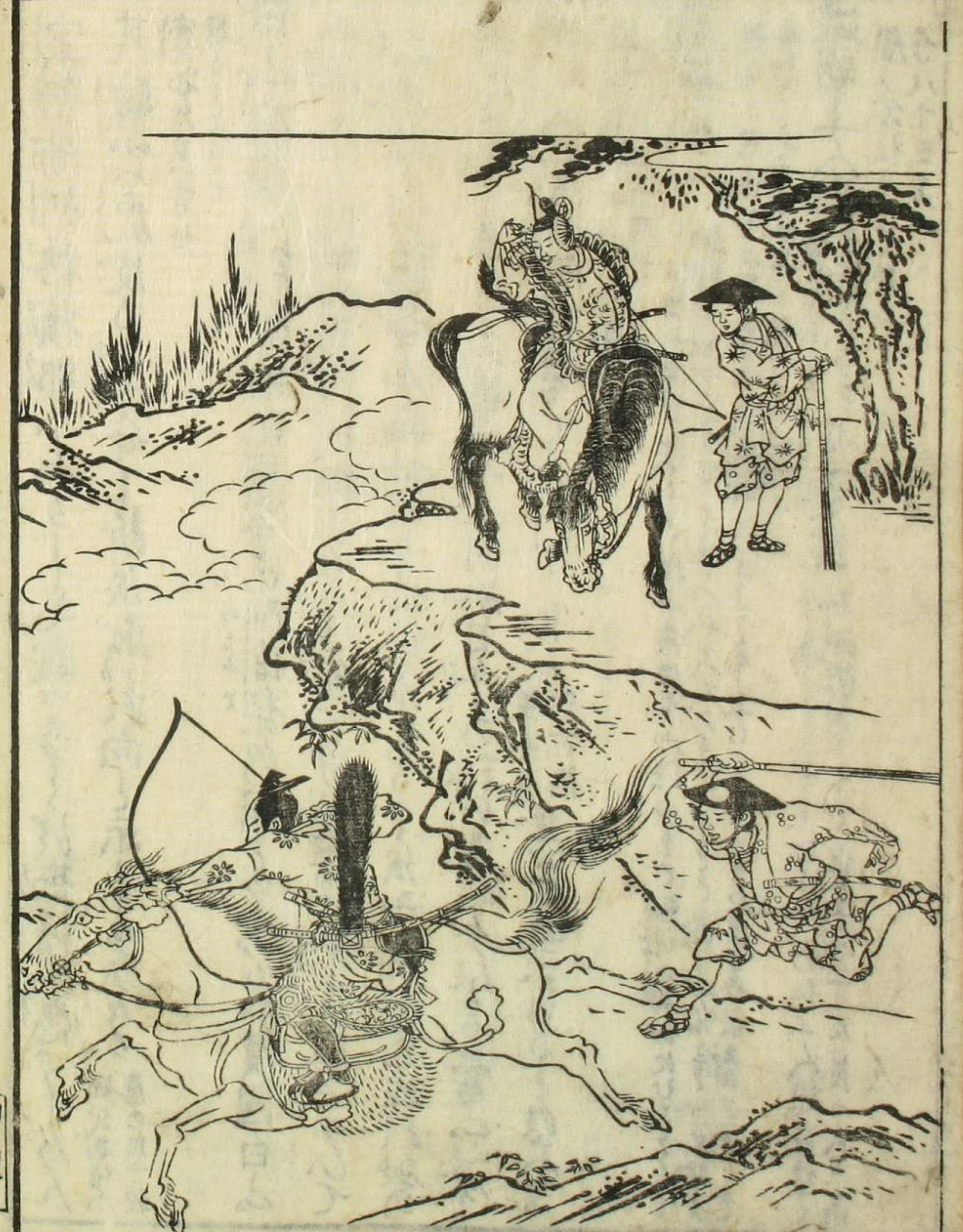
宋朝陽別穂積郡小ありといふ事あり  
其驗小虎皮の出現す所は我れ我向と示しあり  
實物小其手に  
白山権現 當山 靈驗記曰け寺の阿闍梨仍田といふあり加賀國白山  
小法に甲斐國八代郡より法來つる男に権現をいひせめて  
子加泊瀬小鎮坐すを神託あり又二鏡飛來り一は阿闍梨の衣れ神の  
はまれりといふ事あり天祿二年七月初日午の刻の朱をこれり當山小  
同八月二日小社を建つる事あり  
觀者堂 西北の隅 其夜長谷の寺に火あり

蓮華谷 ひくし地小蓮華院とて復小角位あり地ありと勤切の所加はむとて  
然せり瑞意あり聖武天皇の勅據りて年毎の六月十八日に蓮華供養あり  
道明上人廟 驗記曰今二王 安養院 今廢りてふりむり仍仁上人の修り  
聲念仏といふ事あり

三國竹記  
同之  
安養院 今廢りてふりむり仍仁上人の修り



治承小野の初鹿里の  
 西小ありむの  
 雄略天皇五年二月  
 帝治承の小野に  
 遊獵しつゝ多岐の  
 のけしとて鹿を  
 あつゝつゝつゝつゝ  
 日本紀曰  
 このりくの国  
 治承の心とひきこ  
 ちの時よほつゝつゝ  
 也  
 あやたはつゝつゝつゝ  
 也  
 あやようつゝつゝつゝ  
 也





藤井坊 今廢 永享のゆはひ南都成妙院法橋清賢しんもろく長谷寺

夕時雨 あゆみ 夕時雨あゆみのゆはひ下流も氷く落さる乃山くあ

別院長勝寺 今廢 今廢 宇多天皇勅預免福門院の修造碓礮帝

貫之梅 長谷寺田廊の 紀貫之幼少のとき初瀬小住の伯父のまき井坊

浄土の方 まき 浄土の方まき学文十四又栄少く都上朝庭はく仕人そのら

まき井坊 まき まき井坊へ系られ小幼少の時極垂梅の枝瓜折斯定宿在と

浄真 まき 浄真中され梅とんせめ入時

人 まき 人のいさ人もあはれ花とむう此香小句ひける 貫之

與喜 まき 與喜山大神 一名三燈高といふ 當社の清鎮座朱雀院清宇小初瀬里

神殿 まき 神殿まき武麻呂とく一生不犯酒肉辛分断 當寺に住難

弘宗 まき 弘宗とく仏道と信とる俗人ありたり大慶九年九月十八日武麻呂親とる

堂 まき 堂小風夜せしうはと極とるた馬幅子持夜しる老翁忽と駭

我 まき 我は是大威験の神之けしに候しる大聖小值遇せんと思ふと候しる

泊瀬川 まき 泊瀬川の下武麻呂の家前六十歳をくりの密俗石上に坐し居

たり まき たり是則まきん一人たり武麻呂性と物ととり来くなり

あ まき あんとくろろそれより大徳の相坂登てあはれ小徳とぞのやせ

の まき の武麻呂道明上人の廟ありしる追付神酒飲るん勅たり

斯 まき 斯く清堂に訪ひしる志しる念誦ありしる後生のまはるたり

より まき よりまきとくろろ密俗の慶つり遂小ま晴く後老翁を承り是

右 まき 右大正二位天満天神菅原の甘しけし小居るまり大聖の

值 まき 值遇し三徳の苦瓜免んと思ふ瀧藏権現を言ひ曰しれむつ

より まき よりけし山の地まきとく初瀬の川上に居せりけし地に佛法相意の地

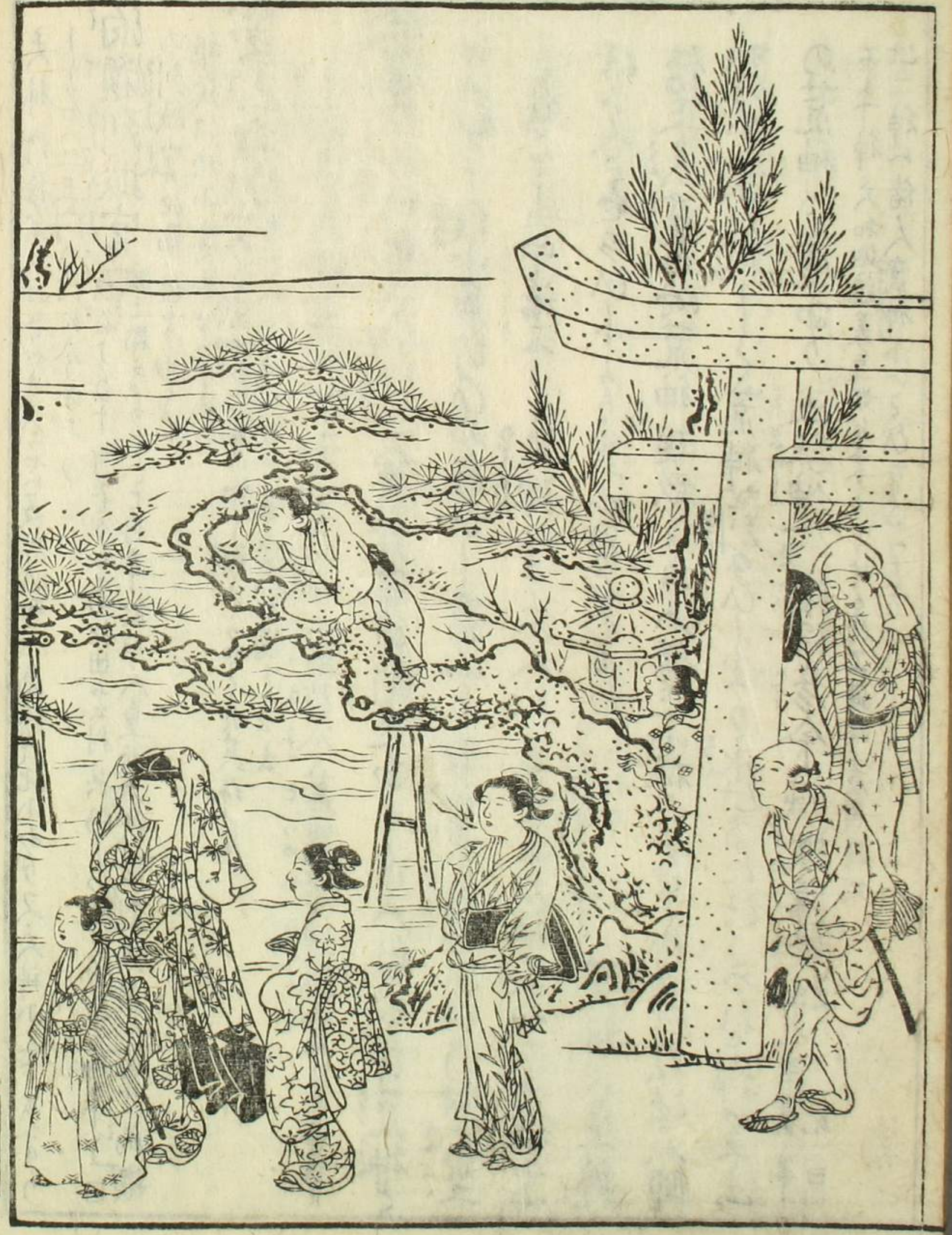
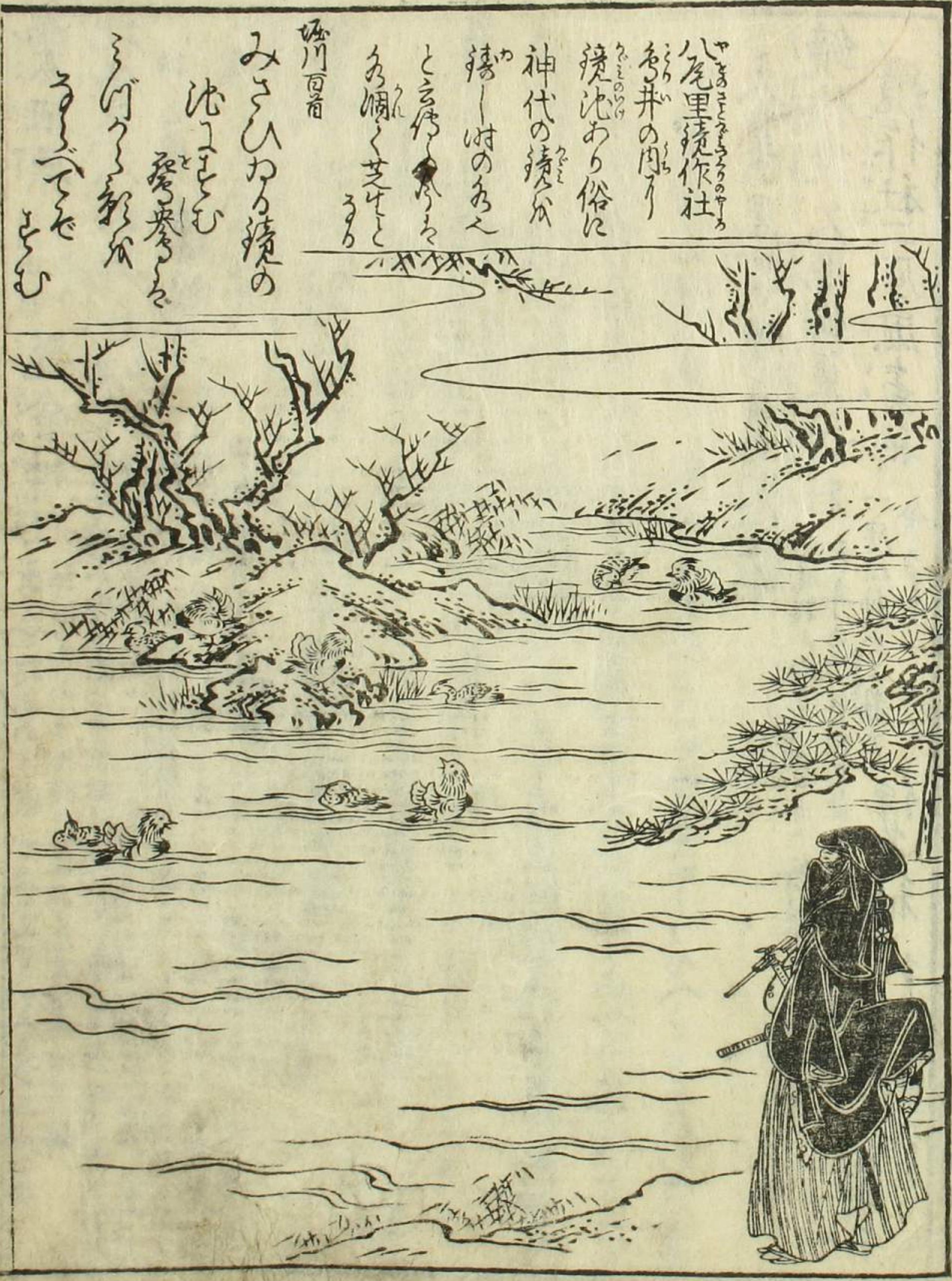
鎮 まき 鎮護國家の初とく化を利生の瑞相金剛不動の寶座之今



より君小ゆりなる水この土地まより移りて本末は地を因曼陀羅家とてゆれ所小竹とてある一木本の松ありかの所より位一木の本小至りあり龍藏権現の言に新感修善與喜地よりとありより與喜山天神と號け其もとあり與喜里とていふ二神の所物より武蔵麻呂志のびくばはるぞう一足洛陽北野大満大自在天神小く清彦と初三年と神祠もさう一と只松の本然りて社と一とるにそとく神託ありて天曆二年七月武麻呂寶殿は建く祠をれと 三国傳 通記

大神 清彦のけさる石の長谷の町の東廻北小あり又天神小三すなかり石の二王門の内今ふあり 泊瀬川城宮 長谷より十町をり南に出る村共なり帝王編年一曰城上郡よりとて日本紀曰人皇九十六代武烈天皇元年泊瀬の列城宮に即位すりて 都谷は地小定めりて 笠山 笠村小あり密峯の笠の如く名とて其形は 雨零者將蓋跡念者笠乃一人雨莫令蓋露者漬跡裳をて麻呂 鷲峯山竹林寺 笠村小 大比不比等の創建ありといふ俗小笠の荒神といひて復小角りひおほひ一靈とて皆無畏之藏末朝乃時天皇と後ろの中流より大流より大入所造の笠は將末ありといふはとて人ささぬひより笠山の名あり 今小あり 荒神の良辨 傍正系龍の時荒神現形一あり傍正小坂小邊せ其後弘法大師かの像は摸し荒神と刻めひより水けはとて持笠山の荒神の座あり 土祖神一坐 澳津彦令一坐 澳津姫神一坐 舊事 左年神天和流美豆姫夫妻とて清子澳津彦與津姫 け二神の諸人電神といひなるなり







栗栖原引田村 瀧倉神社瀧倉村小あり 遊部川十手那より流る 宮古森口村小あり

比賣久波神社城下郡唐院村小あり 糸井神社結城市場村小あり

富都神社富本村小あり 二宅原宮古村 宮古森口村小あり

法樂寺黒田村小あり 本尊勝軍地蔵尊 秘佛今本堂

廬戸宮宮古黒田二村の間 都社小あり 寺川十手那より流る 八尾村小あり

孝靈帝の陵葛下郡片丘にあり 延喜式小 孝靈

天自皇の黒田の皇居の跡八尾村小あり 七箇村の氏神

鏡作坐天照御魂神社八尾村小あり 鏡作今 乾瀨今

鏡作社二座 麻氣神一座 天鏡今 伊多神一座 伊多今

韓人池大和志曰 古村小あり 今柳田池と 長尾氏曰 唐人池高 那

日本紀曰韓人池應神天皇 壬午九月高麗人百濟人 新羅人等 行

作堀 堀しめ 韓人池と 號せり 天皇高市郡 小都せ せ

のひ 輕の 明宮に 韓人池と 號せり 天皇高市郡 小都せ せ

沈坐朝霧黃幡比賣神社氏神 氏神と 神名帳三代實錄 小出

法貴寺實相院 魏と 魏と 法貴村 小あり 傳向 聖德太子 之御 創る 法

齊宮法貴 之御 創る 法貴 寺實相院 魏と 魏と 法貴村 小あり 傳向 聖德太子 之御 創る 法

服部神社今波都里神 今波都里神と 稱と

新六帖

新六帖

新六帖

新六帖

新六帖

新六帖

新六帖

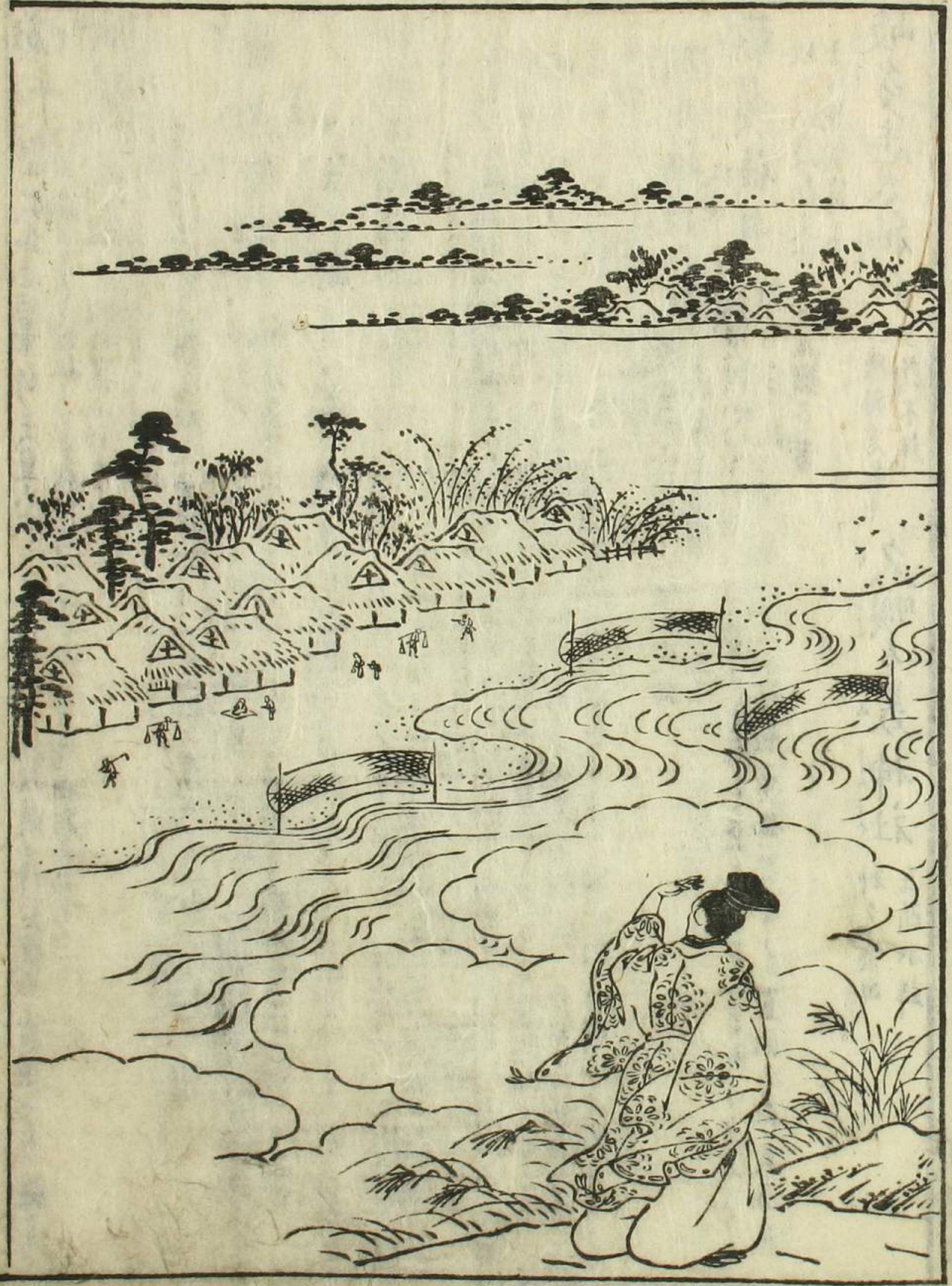
新六帖

新六帖

新六帖

新六帖





夫木

大和川

大和川

里々

おとろ

五と

こと

さけ



坂平池 依和志曰景り天皇六十七の九月坂平池筑造る竹公堤の上植り池あり  
阿刀村里 坂平池の巽小あり  
相模水集

倭恩智神社 海知村小あり  
大和川 城上郡より流く倭恩智社の西南流く  
大和川 大和川といふ余彦頼郡小入て彦城川といふ

村屋坐彌富都比賣神社 藏堂村小あり今大王と称す十に村の氏神と伝神名帳出  
ホ人蘇我のやいろとゆふ日本紀曰は神ハ蘇我靈劍

村屋神社二座 藏堂村小あり十三村の氏神  
神名帳出

靱負御井 藏堂村小あり一(大井戸と称す東大寺舊書軸小入り  
以上小乃ひ文武曲水賦と者  
續日本紀曰寶龜三年三月靱負御井より置酒と陪從五位

岐多志太神社 二座神名帳出  
久順々美神社 神名帳出  
在所不詳

吹上嶺 宇陀郡上萩原村の北に  
墨坂 萩原村小あり  
日本紀出

小野榛原 萩原村小あり  
宇陀川 一名萩原川東西三水下井足ふ  
會一末ハ忍郡小入

宇陀野 宇陀の町より一里むり異萩原村ありそれより一里むり北より  
ひく推百天皇十九年五月日小茶狩於菟田野小志く多曉公時

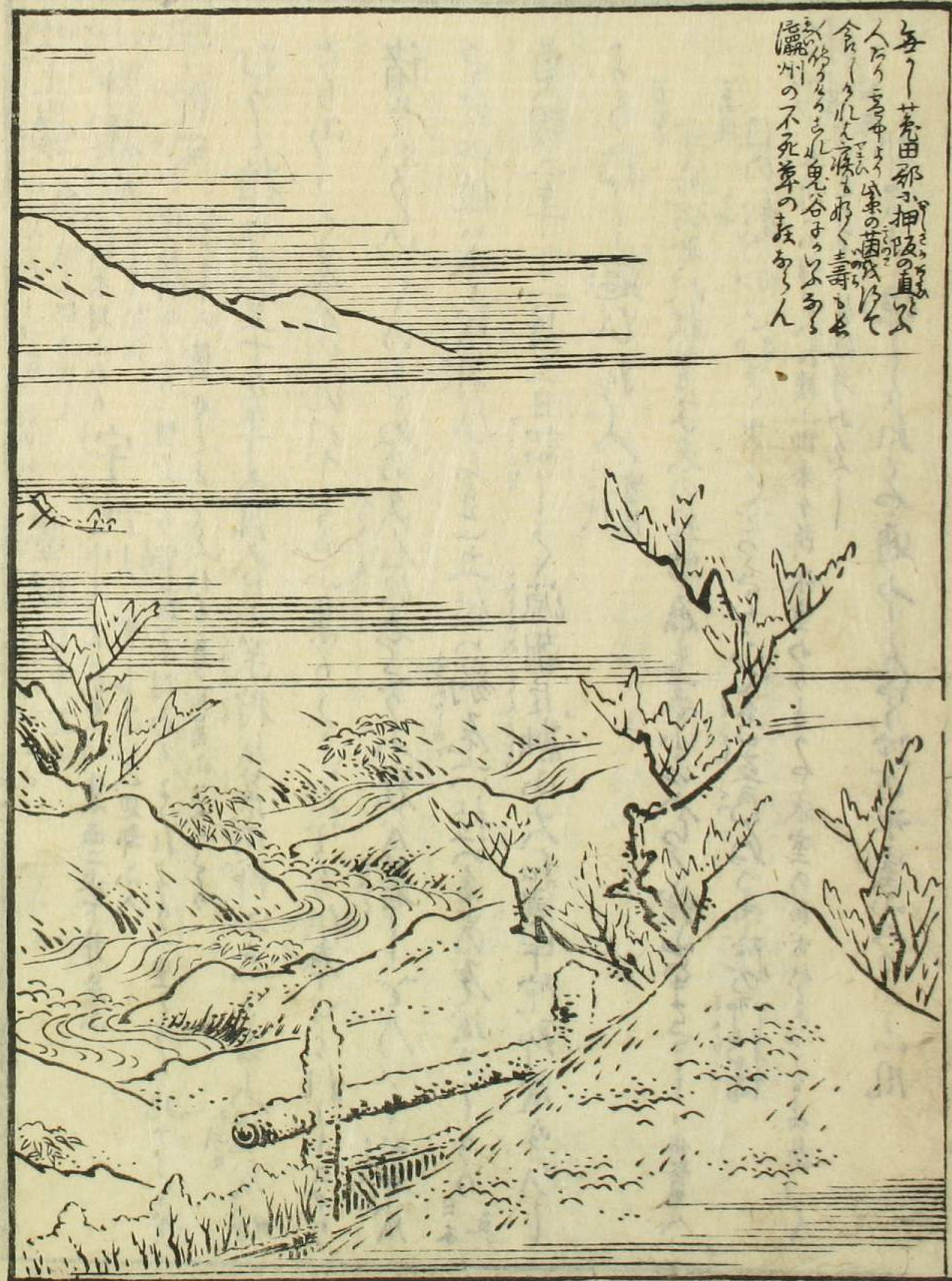
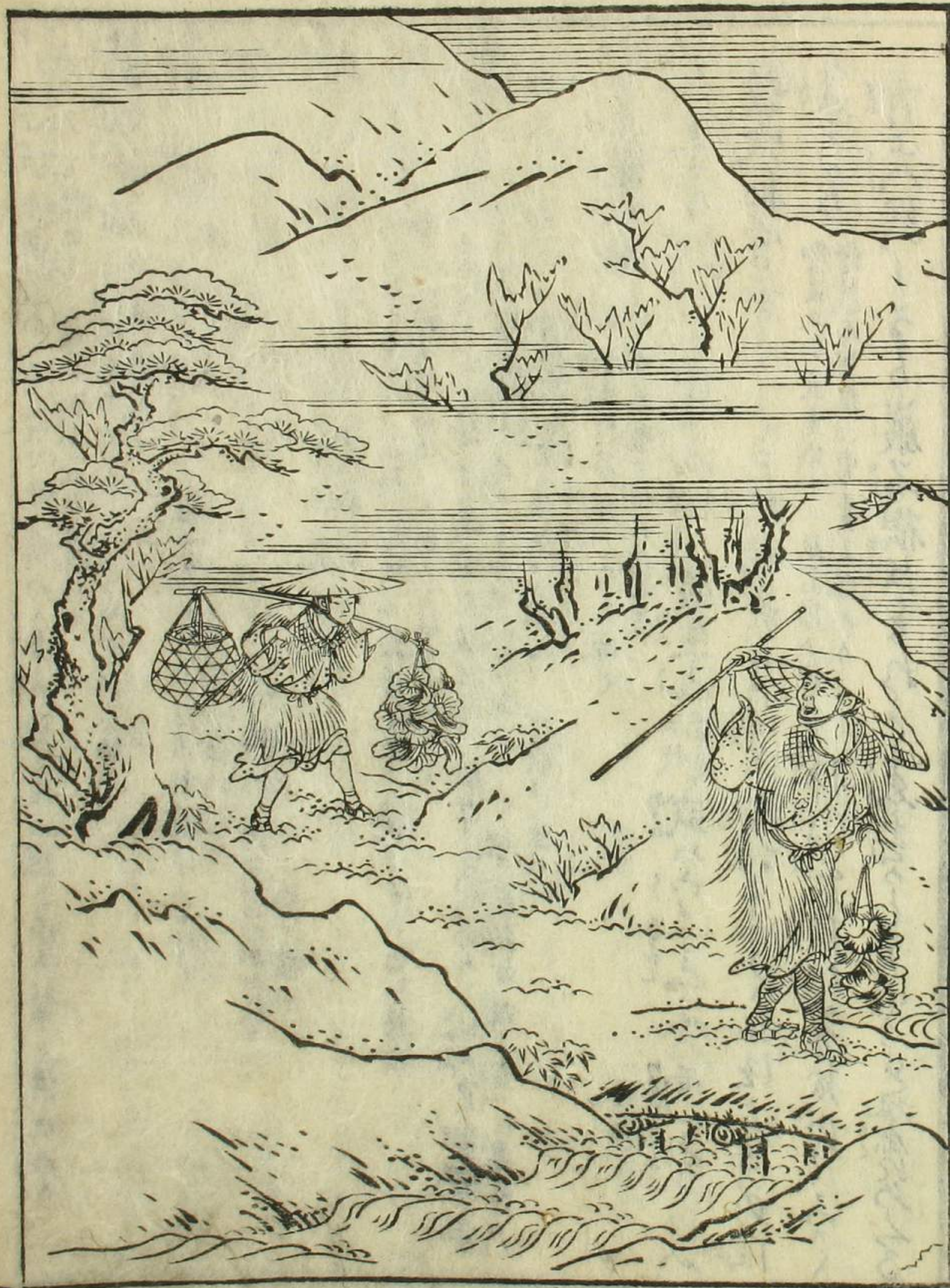
諸君ありひくのさぬの久心にまごう冠公著一と乃く  
さぬ四位の令成利ひらし五位の豹尾六位の尾成さうり  
貞觀二年十一月三日詔一源朝臣融小大和國宇陀郡公ひ

より狩遊ひ入 三代  
實録

宇陀の地れ秋茅子志の兒崎麻も妻小あらく我志すこ  
日の新のひむくやうとより小志を立る宇陀の清持場

氷室 在所不詳大和國小井余ヶ所氷室ありとくや氷室の和名はとも共所  
都より涼しけれと通せん宇陀の氷室小く風





年一廿五田部<sup>ノ</sup>押<sup>ノ</sup>坂<sup>ノ</sup>直<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>  
 人<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>言<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>より<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>苗<sup>ノ</sup>成<sup>ノ</sup>りて  
 食<sup>ノ</sup>へ<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>れ<sup>ノ</sup>ん<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>わ<sup>ノ</sup>く<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>す<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>  
 久<sup>ノ</sup>保<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>不<sup>ノ</sup>死<sup>ノ</sup>草<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>故<sup>ノ</sup>あり<sup>ノ</sup>ん







志守有るは小松原ありて小丸の長丈余ううくみ色の光あり

是より佛法擁護の神とてけ地小祠たりとそ 巴上 秋書

味坂比賣命神社 荷坂村 山槽溪 至り曾爾川入

血原 上田口村 神武天皇詔して天孫見稽おび才稽免田縣に居あり

一乃召たれも才稽はほろろく仕禮見稽をり小應一とぬは

さぶらと瓜攻とていそ我ひたれは足稽とのひさかき一穴入く

とふとて今公喪ひたり其屍公とて斬てたり其血のおうと

ぬと六號く免田の血原といふ 本委ハ舊事紀日本紀

漆部郷 今曾爾 宇多郡漆部里に風流の女あり花顔輝髪よ

し一突千金の容色あり是とふらかの部内漆部造磨の妾うて

七ふ公序り家困窮しと念ふはく衣織るに便ふ一後衣綴り

日々沐浴しと身潔く綴と絡み日毎に拜しとて菜草瓜とて

常に家と浄く系竹瓜調へ端坐に唱し會情恰大上の客の如し

難波長柄豊崎宮 孝徳帝 甲寅年抄の風流の性質神仏感應一春

野 菜瓜採小仙草を合く天に飛去る誠不知顔魯公碑小つんてん

紫虚元君南岳夫人 ともいひはる 日本霊異記

曾爾川 源勢列の界大跡山中よりゆく曾爾谷諸村瓜行く

桂井溪 源三あり一室せと一曾爾一ハ屋風嶽

屋風嶽 長野村小あり山形峭壁一林木叢茂と

門僕神社 今井村小あり曾爾谷村の 此嶽今井村 雄嶽 葛村小あり一名

國見嶽 伊賀目村小あり勢行の三列小跨り 龜山 右希後村小あり山形相龜の如し

御杖神社 神末村小あり今葛明神と称と 神末溪 源神末村小あり

桃股川 源末村郡目見山の東より

倭祓記曰し新小大松と号は松ありけ下は石あり土人各其松を一本ふりて松より

石のまき馬とつるれとつるれとを釣つる石といふは村の古老云は松を常盤常盤の植

らとつる樹より石を義経の馬につるれとつる中他人作りたるむらうよりけ

新にやあつてつる新なりとて

いよのまきれれらのさ松ととれたの松よりつる





漆部ウツのべ女メ





八幡祠 小芳野村 源有綱宅址 下芳野村小あり主人曰常盤宮と称す文治三年六月

五口妻野 東郷村小あり 神御子養年順比命神社 若神村小あり今古前神と

日張山 中村に青蓮尼寺あり 鶴山 北条氏を祀る

籠の地よりそれより傳へる尾の佐院とて勤行今小く人ぞ抄

中將局 横佩右大臣豊成の息女あり 継母の逸に記すてむより山小

捨らむと函谷に籠りて今亦多き家の病ふあそひひいざ父を食けしよ

待りありらぬわぬ不意對面して故郷にくりり多ひぬ更に厭離撮

赤の心絶やして七當麻の實惟法師に師とて髪おれり心尼

とてらぬ改名して法如尼とてけりて名に法如尼とてけり

飲求淨土の外心にはさかして終に淨土曼陀羅をえて性生の素懐

櫻實神社 佐倉村小あり 神名帳出

園田小秦命神社 小和田村小あり 社名帳出

古市神祠 古市場村小あり 淡古川 本郡多居村小入下品谷河に東川に入る

都賀那本神社 下井足村小あり 伊那佐山 下井足村小あり

宇陀水分神社 神名帳三代実録出 林野 十九年音音中陀世薬編に

八咫鳥神社 彦根村小あり 春日神祠 春日村小あり 白鳥居神祠 白鳥村小あり

高倉山 上毛通村小あり 劍主神社 宮内村小あり

雲管山醫王院大藏寺 大藏村小あり 本尊の薬師如来あり

監觸の上宮を子の系創りて其後復小角練仍の地とせりれり

後弘法大師後天皇家の勅令けり堂舎を建立せられたる嵯峨天皇表

の大藏寺の額あり 當山靈室の中は小佛愛深明王長三寸の像あり惠果阿闍梨より

小青色の舎に現り下法に下法に下法に下法に現り

秋之城 其所に神樂石あり





ひかり  
山  
中将  
姫





阿紀神社 逸前村小あり今神戸明神と稱す中洞五前あり隣村三十ヶ村の

氏神と云日本紀神武天皇丹生川上於傍と云大神地祖と云ふ也

松山城 松西町の東小あり元和仲繼田高長公封と云元祿中に至つて修守信武

男坂 半坂村小あり

丹生神社 雨師村小あり大和志百神武紀所謂菟田川の朝系所より神武天皇

竹川 新さくらさくら内國と云之祖一丈和國宇陀郡に竹川の流あり

おまむのぶらり竹川の園のみどりもさくらさくら

大和名所圖會四之卷 尾



